

「済生会交差点」  
病院機能の再編・統合  
[滋賀県病院+守山市民病院]

# 済生

## SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

### No.1098



# 12

December 2020

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜  
財団

済生会

# 済生会の 不易流行論

理事長 **炭谷 茂**  
Shigeru Sumitani



## コロナ禍での済生会の進む道

### 競

争の厳しいプロスポーツで長く現役を続ける選手には、いつも感心している。

三浦知良は、体力の消耗が激しいJリーグで53歳の今も横浜FCでプレーする。常に体のトレーニングを怠らず、基本練習を繰り返して、出場機会を待つ。

ドラゴンズの山本昌は、投手として50歳まで現役という記録

を持つ。入団後、低迷していたが、アメリカで内野手から習ったスクリーンボールを武器に頭角を表し、左腕として活躍した。「ランニングは欠かさないなど基本を徹底したのが、プロを長くやれた理由だ」と本人が語っていた。

イチローも45歳まで現役プロ野球選手として日米に輝く記録

を残したが、体の手入れと練習をルーティンとして引退するまで厳しく自分に課した。

私も、基本を大切にして努力することが、人生で最も大切だと思ってきた。学校での勉強や社会での仕事でも言える。必要な時に力を発揮するのは、繰り返して練習し、体にしみ込みこませた基本的な事柄だった。安易な方法や奇策を用いて一時的に成功しても、長続きはしない。

現在のコロナ禍で病院や福祉施設は、経営難に直面している。こんな時に怪しげなコンサルタントが「うまい方法がありますよ」と悪魔のささやきをしてくる。すべてが詐欺である。

危険の時や苦難な時こそ基本に戻らなければならない。

☆ ☆  
コロナ禍では患者や利用者の視点に立つことが特に重要である。患者や利用者は、不安や悩みが強いから、その立場に立ったサービスを提供しなければならぬ。「患者・利用者本位のサービス」を掲げているが、近年の経営理論が示す「患者・利用者の立場からのサービス」という思考が求められる。

コロナ禍での済生会は、済生会の理念を踏まえ、次の3点を基本にしなければならない。

第1は、コロナ感染者の医療等について自治体からの要請があれば、積極的に受けて対応することである。医師、看護師等の負担が重くなる。感染の心配から患者の減少もある。しかし、済生会の理念からは、誇りを持って対応すべきである。住民は、済生会の行為を必ず評価してくれる。

第2は、感染対策に万全を尽くし、最善の医療サービス、福祉サービスを提供することである。患者や利用者は、感染を心配する。情報を公開し、徹底した予防対策を知ってもらおう。患者・利用者の済生会への信頼が増大する。

第3は、地域における住民の間につながりを強固にすることだ。7月に策定した「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を実行する。感染者に対する差別的な根本的な解決となる。このような基本をもとに地道に進んでいけば、コロナ禍を完全に克服できるし、済生会の飛躍的な発展は、疑いようがない。

確実にやるのはどこでもできる。  
確実に速くやるからこそ「価値」になる。

NEWSな済生人

## 坂本知浩さん

住民の健康も、連携先との信頼も守る  
熊本病院 循環器内科部長/医療連携部長/管理運営部長

06

## 済生会交差点

《病院機能の再編・統合1》経営移管で相手を知る新連携体制。「三方よし」を実現させた3要因/《2》経営移行に伴う看護師離職、WLBを徹底して防止へ/《がん患者を支える》医療用麻薬の誤解を解き、心も体も楽になる緩和ケア/

10

《認定看護師の地域活動》認定看護師が出前研修で地域の実践力アップに貢献/《目指せ、広報力アップ!!》職員の広報意識向上を目指し、心を打つ良い写真を追求

## 新型コロナウイルスとの戦いの記録

各施設から —— 全国済生会福祉施設長会/〈栃木〉宇都宮病院/〈東京〉中央病院/〈佐賀〉唐津病院/〈奈良〉病院/〈富山〉高岡病院/〈大阪〉吹田病院/〈三重〉松阪総合病院/山形県済生会

20

## 巻頭コラム 済生会の不易流行論

03

コロナ禍での済生会の進む道 理事長 炭谷 茂

## 12月のたよりが聞こえる — ニホンリス

05

表紙のことば 久保田真由美

## 無低 & なでしこプラン

25

## なでしこナースのストーリー

19

## この人 高橋礼華

28

## 口福にっぽん 吉井省一

30

## だれでもかんたん てづくりおもちゃ

32

いまいみさ

## TOPICS

34

## 載々、大雑報

56



日本の森や林に住む6種類のリスのうち、ニホンリス、エゾリス、エゾシマリスが固有種。本州にいるのがお腹の白いニホンリスだが、ご多分にもれず、お腹が茶色い外来のタイワンリスに押しまわられている。フィリピン・プレートに乗って、静岡県沼津市あたりにドーンとぶつかっている伊豆半島。タイワンリスも一緒に乗ってやって来た……わけではなく、1930年代、伊豆で人に飼われていたのが逃げ出し、生息域を広げた。

でも、実を落とした木にとってはありがたい。春を迎えると、そこから芽を出し、分布を広げていく。木にとっても、そんな「うっかりさん」は実にかわいいのだ。

## 表紙のことば

### 誰かさんそっくり? 冬のあわてもの

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

鼻ピクピクさせてあちらにチョコチョコ、こちらにチョコチョコと忙しく動きまわります。師走はリスも大忙しです。秋から冬にかけて、あちこちで美味しいものを見つけ、冬の間安心できるくらい

のたくさんの食べ物をため込みます。体型もふつくと少し丸くなり、ふさふさとした暖かそうな毛をまといます。あなたの12月はリスに似ていませんか? 私はリスにそっくりです。

## 12月のたよりが聞こえる ニホンリス

リスは、かわいい。体全体が小さく、頭も目も大きい。動物行動学のローレンツが提唱した「かわいい」と感じるベビースキーマの原則を満たしている。チョココマカした動きに、もふもふ尻尾。しかし仮に、顔立ちがちよつと似ているオオカンガルーのように、尻尾で立ち上がって2メートル超にもなったら、どうだろうか。

狭まっているのは外来種のせいばかりではない。おじいさんが山へ柴刈りに行かなくなると、大好きな松林がどんどん減っているのも理由の一つ。たきぎ用だった低木が生い茂るとキツネなどの天敵が隠れやすくなり、一方で松はマツクイムシによる立ち枯れが続出。リンゴを丸かじりしたように、芯だけ残して松ぼっくりをきれいに食べる得意技も、次第に見せられなくなっている。



題字協力: 石飛博光

アートディレクション: OVO INTERNATIONAL

# 住民の健康も、連携先との信頼も守る

熊本病院 循環器内科部長 / 医療連携部長 / 管理運営部長

## 坂本知浩さん



外来がん治療センターにて。左は聞き手の森本さん

### NEWSな済生人 Interview

2020年は、社会全体が新型コロナウイルスに大きく影響された1年でした。特に、春先から初夏にかけては、感染を恐れる患者の受診控えが進み、それによる健康被害も懸念されました。こうした中、熊本病院は、感染状況が収束傾向に向かった7月に「かかりつけ医への受診勧奨キャンペーン」を実施しました。コロナ禍の逆境の中で、地域住民の健康を守る取り組みを主導する坂本知浩さんに話を伺いました。

(熊本病院 済生記者 森本通子)

**森本** 今年は、新型コロナウイルスで医療現場は大変な1年でした。

**坂本** 熊本病院では、4月に入院患者が「コロナ陽性」という誤った報道がされました。熊本市検査センターが検査結果を取り違えたものでしたが、「済生会熊本病院で院内感染が発生した」という誤報のダメージは大きかったです。4〜5月の入院収入は前年に比べ2割近く減少しました。

**森本** その時期はどの医療機関も患者数が減ったとは聞きましたが、2割も！

**坂本** 感染拡大期には「25%削減モード」と銘打って各診療科に協力を仰ぎ、新規入院、検査、手術の数を25%減らして、コロナ疑いの急患受け入れに備える院内体制を敷きました。

**森本** まさに緊急事態ですね。

**坂本** ベッドの確保がそのまま経営面でマイナスになっていた中での独自の対応です。その後、重点医療機関として、国から空床



## ”全方位連携”で共にコロナと戦う

確保の補助金が支払われるようになりました。

**森本** どの医療機関もコロナに対応すると経営が悪化するという悪循環――。

**坂本** 本場に懸念されることは、患者さんの健康面への悪影響です。コロナによる受診控えとの相関は不明ですが、6月の急性心筋梗塞の緊急カテーテル手術は24件。前年同期の11件から2倍以上に増えました。

**森本** 6月なのに？

**坂本** たしかに心筋梗塞は寒い時期に起こりやすく、6月にこれほど発生したのは、初期症状で早めに受診していれば手術に至らなかった人が、緊急搬送されたのではないかとみています。

**森本** ここにもコロナの影響が……。

**坂本** 地域の皆さんに、コロナによる受診控えの危険をアピールしなければと考え、「かかりつけ医への受診勧奨キャンペーン」を企画。新規感染が落ち着いた7月に、市

### 第2回 済生会熊本病院 禾采連携フォーラム



医療連携部のスタッフ

民公開講座「コロナが隠れたこの時期に治しておこう、その病気。」を開催し、コロナの予防法と心臓と血管の病気について、当院の専門医が解説しました。

**森本** なぜ心臓と血管の病気を？

**坂本** 患者さんのQOLを下げる病気を早めに治すという意味を込めて、まず心房細動と下肢静脈瘤の講座を行いました。重篤化すると救急搬送を要する病気なので、早めの治療を呼びかけました。海外でも心

※新型コロナウイルス感染防止のため、当分の間、インタビューは当該施設の済生記者が務めます。また、写真撮影時のみマスクを外しています



【写真左上】受診勧奨キャンペーンの市民公開講座で挨拶する坂本先生 【写真左下】市民公開講座で実施したお楽しみ抽選会の当選者と一緒に

地域の医療機関を全力で支える

筋梗塞を起こした患者さんがコロナを恐れて病院を受診せず、心停止の状態ではれたケースが増えたと聞いています。

**森本** 本キャンペーンで、かかりつけ医への受診を勧める理由はなんですか。

**坂本** そこがこのキャンペーンの肝です。こんな時こそ、さまざまな機関との関係を深めようというのが、当院の連携戦略です。

**森本** コロナの受診抑制で、地域のかかりつけ医も経営が悪化していると聞きます。

**坂本** 当院が急性期医療に特化できるのは、開業医の先生から患者さんを紹介してもらい、急性期治療を終えた患者さんを、回復期や維持期の病院などにバトンをつなぐ地域連携の仕組みが機能しているからです。開業医の先生方には国などの経営的サポートが少なく、コロナ禍で患者さんが受診を控えるのはまさに死活問題です。

**森本** それほど経営が厳しいのですか。

**坂本** 4〜5月ごろは、連携先からの紹介患者さんが、前年に比べ約3割減少。普段なら当院に紹介を要する患者さんが、地域の医療機関を受診していない様子が透けて見えます。

部ではすぐに新型コロナウイルスに関する診療連携ガイドを用意。感染疑いに関して当院に相談できるシステムを作りました。

**森本** どのような仕組みですか。

**坂本** 発熱者専用の外来ブースを設けて、病歴、濃厚接触者の有無等を確認し、必要に応じてCT検査も行ないます。現在はLAMP法というPCR検査の簡易版の遺伝子検査や、抗原定量検査（高感度のコロナ関連の抗原を定量するシステム）も導入しました。陽性なら保健所に相談して対応し、陰性と判断した場合は、開業医の先生のところへ戻ってもらうというコロナの時期だけの特別な前方連携です。

**森本** 先ほどの「25%削減モード」とは真逆の対応ですね。

**坂本** そうですね（笑）。でも開業医の先生方にはとても好評で、「迅速に受け入れてもらえるだけで元気が出る」とのうれしい言葉もいただいています。

「病院は最も安全」

SNSも活用し全世代にアピール

**森本** コロナの疑い患者さんを受け入れる病院は、一般患者さんに敬遠される懸念もありますか……。

**坂本** 「万全な感染対策を講じている病院こそ、最も安心な場所」と認識し、安心して受診してもらいたいです。

**森本** どのような対策をしていますか？

**坂本** 出入口での検温や発熱者と一般患者の動線の完全分別、発熱を認めた場合、48

**森本** キャンペーンでは、かかりつけ医にどのようなアプローチを？

**坂本** 3〜4月ごろ、密接に連携していた医療機関に、地域連携の責任者である私が出向いて、「コロナ疑い患者の対応を見越し、ベッドを確保するため、いつもより転院の時期を前倒しして、病状が落ち着く前の患者さんの受け入れをお願いする形になります」と、院長先生に直接申し入れしました。皆さん快く受け入れてくれました。

**森本** 日ごろの顔が見える関係づくりが大切ですね。

**坂本** 連携先の医療機関を回ったとき「コロナ疑いの患者が来ても、PCR検査は保健所主導のため当院では対応できず困っている」と相談を受けました。医療連携

**森本** 即時性のSNSと、信頼感・安心感の新聞報道を使い分けるのですか。

**坂本** もし当院関係者がコロナに感染したとしても、院内の状況や診療は、情報がまとまり次第公式ホームページでお知らせを発信し、併せてFacebookやTwitterといった公式SNSでも同じ内容を発信する体制になっています。迅速な情報発信を行うことで、多くの患者さん・地域住民に速やかに安心を届けられるのではないのでしょうか。

**森本** 市民に正確な情報を広めるためのアイデアを考え、地域の医療機関とは地道に足を使ってつながる——思考と行動の両面の取り組みが重要だと感じます。

**坂本** そのとおりです。当院では前方連携・後方連携を超えて、さらにその前の段階の患者さんやそのご家族にもアプローチする「前前前方連携」、そして「側方連携」にも取り組み始めました。

**森本** 側方？

**坂本** 側方連携には二つあり、一つは「当院にない診療科との連携」を指し、特に歯科との連携を重視しています。

**森本** なぜ歯科を？

**坂本** 例えば、心臓弁膜症の人工弁置換手術

【取材を終えて】……

コロナ禍にあつて、地域の中核病院としてできることは何か。感染拡大期の院内体制の整備や、地域とかけつけ医をつなぐキャンペーン、そしてDX（デジタルトランスフォーメーション）を用いた連携フォー

部ではすぐに新型コロナウイルスに関する診療連携ガイドを用意。感染疑いに関して当院に相談できるシステムを作りました。

**森本** どのような仕組みですか。

**坂本** 発熱者専用の外来ブースを設けて、病歴、濃厚接触者の有無等を確認し、必要に応じてCT検査も行ないます。現在はLAMP法というPCR検査の簡易版の遺伝子検査や、抗原定量検査（高感度のコロナ関連の抗原を定量するシステム）も導入しました。陽性なら保健所に相談して対応し、陰性と判断した場合は、開業医の先生のところへ戻ってもらうというコロナの時期だけの特別な前方連携です。

**森本** 先ほどの「25%削減モード」とは真逆の対応ですね。

**坂本** そうですね（笑）。でも開業医の先生方にはとても好評で、「迅速に受け入れてもらえるだけで元気が出る」とのうれしい言葉もいただいています。

術の患者さんには、術前に必ず歯科検診や歯周病の治療を受けてもらい、術後に起こるかもしれない虫歯を原因とする細菌感染を未然に防いでいます。

**森本** もう一つは？

**坂本** 医療業種以外との連携です。当院の強み・弱みをリサーチし、コンサルタントしてもらおうマーケティング会社などとの連携です。すなわち、かかりつけ医との前方連携、回復期・維持期の病院との後方連携そして今お話しした二つの側方連携という「全方位連携」を展開しています。

**森本** 企画広報室の私でも医療連携部の企画はユニークだなと感じています。

**坂本** ほかにありますよ。消化器内科の胃カメラ検査の紹介患者さんを増やすために「カメラを止めるな」という映画のポロディポスターを作ったら、すかさず外科の脳動脈瘤に対するコイル塞栓術治療を「コイルで止める」とPRしています。

**森本** すごくキャッチーですね！

**坂本** まじめ一辺倒じゃ面白くない、遊び心を忘れないようにしようというのが連携部のモットーです。今後医療分野にとどまらず多方面の機関とつながり、幅広い取り組みを行なっていきます。

ラムなど。時流を先読みして先手を打つ坂本先生の姿に広報担当として改めて刺激を受けるとともに、市民と医療機関をつなぐ、熊本病院の役割を再認識した取材でした。（森本通子）

図1 滋賀県病院における入院収益、延べ入院患者数、新入院患者数の推移

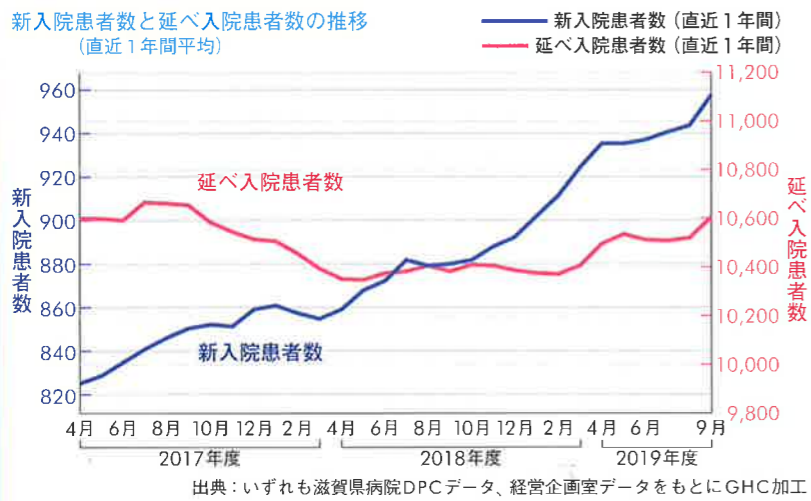
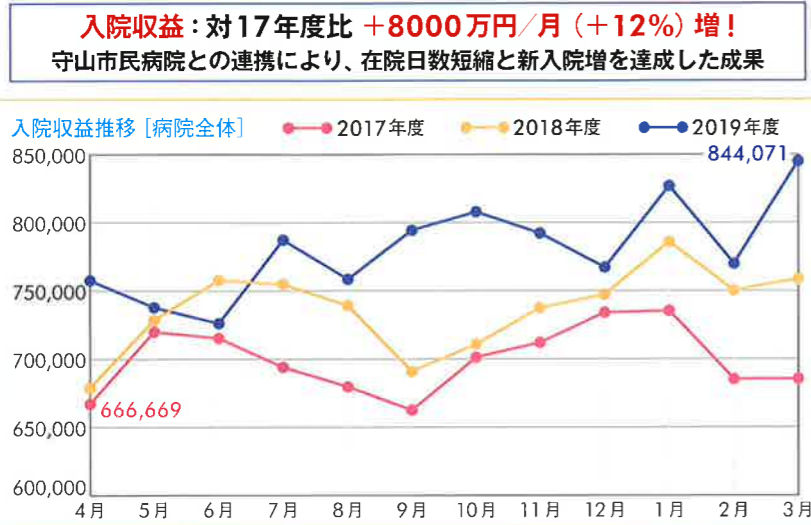
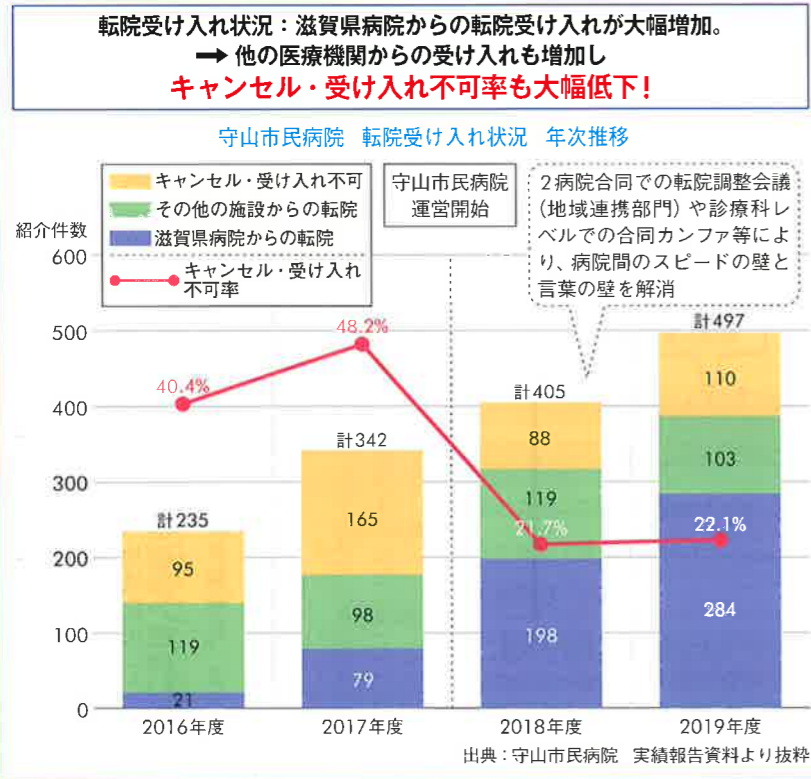


図2 守山市民病院における他院からの転院受け入れ数推移



濟生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。

**両院におけるIDSの成果**

滋賀県病院は、守山市民病院が濟生会に移行する前の2017年度に対し2019年度は、

1) 一方、守山市民病院も濟生会移行後の18年度は新入院患者数が増加、19年度には延べ入院患者数も対17年度比3・9%増入院収益は同14・0%増となった。滋賀県病院からの転院だけでなく、他院からの転院も増加結果的に転院打診に対するキャンセル率が大きく低下した。(図2)

**両院が抱えていた課題**

滋賀県病院では、従来急性期を脱したものの在宅復帰に時



**特別寄稿**

2018年4月、濟生会で81番目となる「濟生会守山市民病院」が発足した。開設は従来通り守山市のまま、指定管理は濟生会滋賀県支部、実際の運営は隣接する栗東市にある「滋賀県病院」が担う。両院は地域における互いの役割を再整理し、医療介護提供体制の再構築を図っている。筆者は、両院における「病院機能の再編・

統合（IDS=Integrated Delivery System）」による効果を最大限に発揮するための経営支援をしてきたコンサルタントの立場から、本IDSの成果とその要因について紹介する。

**GHC アソシエイトマネジャー 中村伸太郎**

入院収益が月8千万円（11・7%）増加した。在院日数短縮（期間II超率・30・6%↓27・6%）と新入院患者数増加（19年度月平均922症例、17年度比13・1%増）を両立したことで、病床稼働を維持したまま入院1日単価を向上（19年度7万1000円、同6・8%増）させたことが大きい。(図1)



GHC = (株) グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

# 経営移行に伴う看護師離職 WLBを徹底して防止へ



済生会守山市民病院  
看護部長 木村真奈美 副看護部長 吉村 薫

WLB推進委員会を立ち

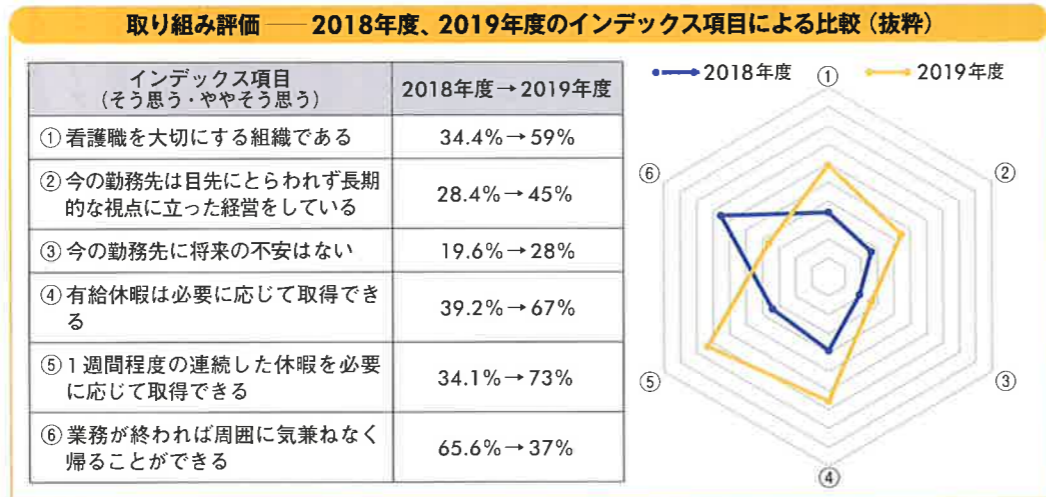
を目的とし、院内と看護部

間を実施。各職場へ出向き方針



2017年5月、当院は公立病院から済生会病院へと経営移行することが発表され、移行前に職員ヒアリングが行なわれました。職員からは、この病院が今後どこに向かうのか、私たちはどうやってまうのか、勤務体制や福利厚生・待遇の問題、慢性的な人手不足の現状、そして公立ならではの職業的な安定感がなくなる——など、これからの組織を不安視する声が多く出されました。

私たちは全看護師126人が残留するよう働きかけを行なったものの、年度末には離職率が21%となつてしまいました。残った人員で看護の質を維持しつつ、この危機的な状況をどう乗り越えたらよいのか。頭を悩ませながらも、これまで以上に、看護師を



2019年度の取り組み結果 (前年度とのインデックス調査比較)

分野	調査項目	2018年度結果→目標値	2019年度結果
組織・経営	今の職場に不安がある	80.4% → 40%	72%
	今の職場で長く働き続けたい	49% → 80%	54%
労働環境	有給取得	年/12日	13.1日
	5日間の連続した休暇の取得ができる	34.1% → 100%	73%
労務制度の認知	労務制度を認知し、状況に応じて必要な内容が理解できる — 制度認知の指標	13.2点 → 18点	—
離職率	[従来] 10%以下 [2018年度] 10.5%		6.0%

## 幹部が職場へ出向いて説明

開始しました。

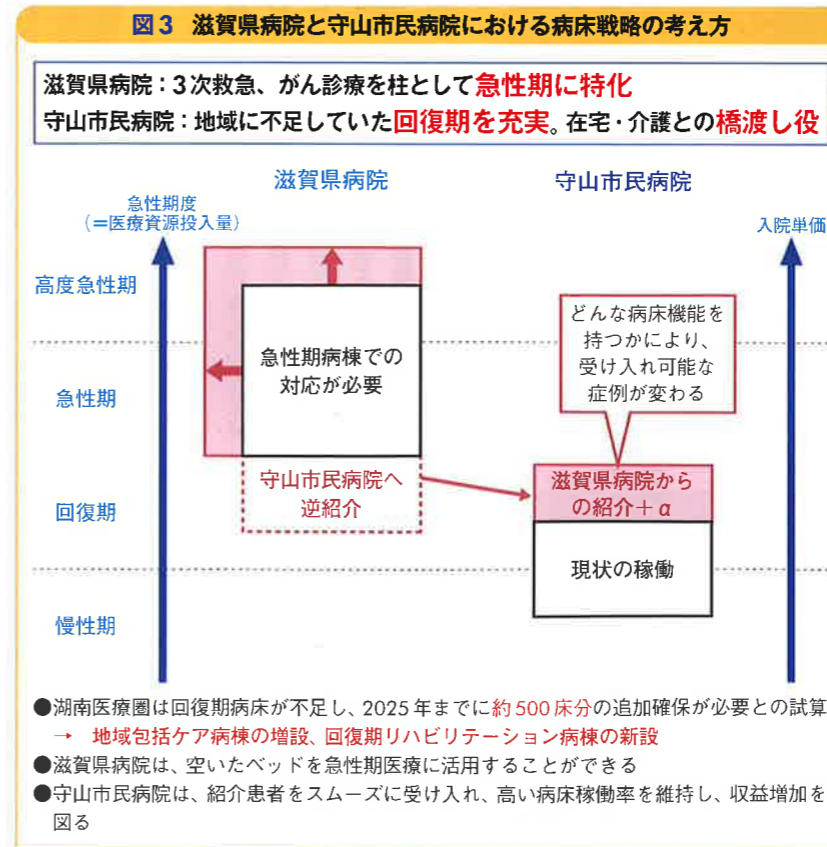
まず、幹部職員(院長・事務



学会で発表する中村氏

面談すること職員一人ひとりを尊重していることを伝えるとともに、病院運営について考え直すきっかけを与え、さらに職員が自らの発言した内容に責任を持つことで今後の病院運営にも貢献してくれることを期待できる等、様々な効果があったと考えている。

計画実行の難しさとIDSに必要なこと



互いの状況を知ることで円滑な転院調整を推進した。守山市民病院では並行して地域開業医訪問も充実させ、紹介増加を図った。今では開業医からの要請を受け、在宅療養支援病院を取得。こうした病病連携・病診連携の推進が本IDSにおける成功要因の一つである。

図3は、守山市から水面下で本IDSの打診を受けた滋賀県病院から、検討支援の相談を受けた際に弊社が提示した資料である。両院のDPCデータやレセプトデータ等に加え、オープンデータを組み合わせたデータ分析に基づき、本IDSを成功させるための戦略を示した。

意味がない。守山市民病院では滋賀県病院幹部並びに弊社も参加して経営改善ミーティングを毎月開催した。済生会移行直後は病床稼働も入院収益も大きく増えず同院にとっては厳しい時期もあったが、粘り強く成果を上げてきた両院職員の皆様に敬意を表したい。

本IDSが成功することで両院の経営が上向くことはもとより、守山市や栗東市を中心とした地域住民に提供する医療サービス水準が充実する。患者にとっても、地域住民にとっても、病院経営にとっても効果的な病院機能の再編統合。まさしく滋賀県・近江商人の経営哲学である「三方よし」の考えだ。本IDSがそういう意味でのモデルケースとなることを期待したい。

# がん患者を支える

〈群馬〉  
前橋病院  
緩和ケア内科  
角田美奈子

## 医療用麻薬の誤解を解き 心も体も楽になる緩和ケア

緩和ケア病棟には、がん末期を苦痛なく過ごすことを目的とした患者さんが入院して

きます。痛みや倦怠感、呼吸困難などの症状緩和は医療用麻薬を使用しますが、麻薬の導入

の説明や意見交換の場を設けました。看護部では看護職員全員に個人面接を行い、職員、職場の現状を把握。そこで得た情報から問題を分類し、対策をそれぞれ関連する部門へ振り分け、早期に対応できるようにしていきました。改善に時間を要することや対応できないことはその理由を説明し、時間がかかることについては進行状況などを随時報告するようにしました。

から得た勤務体制改善への対策を具体化し、取り組んでいます。こうした活動やそれで得た結果は通信紙を作成して各部署に配付しています。

**今まで危機感が少なかった**  
取り組みの評価を2018年度と2019年度のインデックス調査項目で比較したところ、わずかですが組織・経営への数値が改善。これは活動の結果であると考えています。看護師数も現在160人に増えています。職員が満足、納得できる職場づくりは人材確保の上で大きな課題です。公立病院として歩んできた過程でも同じことは言えるのですが、定められた枠の中で大きな危機感を持たず過ごしていたように感じています。今、改めて、済生会病院として一緒に

発行日：平成30年12月26日  
発行元：看護部WLB委員会（委員長：木村麻理香）

「気持ちよく働きたいと思える職場環境の創出に向けて」  
看護部WLB委員会より、職員一人ひとりに、働きやすさ、働きがい、働き甲斐のある職場環境の創出に向けて、取り組んでいます。今年度は、働きやすさ、働きがい、働き甲斐のある職場環境の創出に向けて、取り組んでいます。今年度は、働きやすさ、働きがい、働き甲斐のある職場環境の創出に向けて、取り組んでいます。

取り組みをみんなで見よう  
取り組みをみんなで見よう

気持ちよく働きたいと思える職場環境の創出に向けて

平成30年度～平成31年度（計画）  
インデックス調査と報告・振り返り  
① 看護部WLB委員会  
② 看護部WLB委員会

平成30年クリスマスに看護部WLB委員会が発刊した「守山なadeshiko通信」



本研究を行なった3人の看護師（中央が筆者）

こうした先入観がある患者さんは「医療用麻薬の使用を勧められたのがショックで、薬に関する医師の説明が全く頭に入らなかった」とも話してくれました。

**患者の不安に寄り添い  
受容まで共に歩む**  
看護師には、患者さんの胸の内の思いも引き出して受け止め、気持ちを整うように関わる役割があります。

ある乳がんの患者さんは、入院当初から呼吸困難感や疼痛の症状緩和のため、麻薬の投与が必要でした。しかし、注射による投薬を強く拒まれ、内服の傾用のみで開始。日に日に傾用回数は増し、カンフアレンスで持続皮下注射への移行を検討しましたが、本人の拒否は強く導入に至りませんでした。



ベッドサイドで患者さんの思いを傾聴  
カンファレンスで病棟スタッフと情報を共有

その後、内服では効果がなく強い痛みが襲われ、皮下注射の傾用でモルヒネを使用。すると「注射をしたらいくらかよくなった。飲み薬では無理そう」と効果を実感され、注射の持続投与に移行できました。

日々の関わりの中で医療用麻薬に対する患者さんの認識が



変わり、使用して効果を実感し受け入れてもらえた好事例です。一概に、薬の副作用や効果を細かく説明することで患者さんやご家族が理解し、受容につながるわけではありません。今後とも患者さんやご家族のさまざまな認識や思いを理解し、終末期のケアに関わっていききたいと思えます。



## 認定看護師の地域活動

新潟病院  
認定看護師室  
13人

## 認定看護師が出前研修で 地域の実践力アップに貢献



認定看護師13人が集合

新潟病院には、「感染管理」や「皮膚・排泄ケア」など9分野13人の認定看護師がいます。2010年に院内に認定看護師連携会議を設立し、2015年から本院の理念「医療と看護の質の向上」への貢献を目指し、認定看護師が丸で取り組む委員会活動を開始しました。

主な活動の一つに、地域支援活動があります。認定看護師の専門性を地域に生かすため、院内のナース講習を、地域の医療従事者へと対象を拡大し開催するものです。参加しやすさに配慮し、ショートタイム研修会も実施しましたが、思うように参加



福祉フェアで摂食・嚥下障害看護認定看護師が、市民に口腔機能維持をレクチャー



集中ケア認定看護師が、ケアマネ研修で在宅NPPV体験を実施

者が集まりませんでした。認定看護師間で対策を協議したところ「参加者のニーズに合わない」「勤務終了後に会場まで来るのが大変」などの意見がありました。

そこで希望のテーマ・時間・場所に、私たち認定看護師が出かけて行なう「出前研修」を企画。開始当初の2016年度の依頼は3件でしたが、翌年度から分野ごとに具体的なテーマを

挙げて「こんな研修会もできます」とアピールすると、年間の依頼は15件と5倍増になりました。受講者からは、「知りたいことがわかった」「自施設の物品で研修を受けることができ、実践につなげやすい」などの感想を得ました。

**ケアマネや市民向け活動も**  
ほかにも、地域のケアマネジャー対象の研修会を実施。血糖

測定やNPPV（非侵襲的陽圧喚起療法）などの医療行為を体験してもらいました。

市民向けの活動もあり、地元新聞社主催の医療や介護、福祉のイベントに参加。初年度はミニセミナーを行ないましたが反応が薄かったため、次年度からは集客を最優先に、健康豆知識を楽しく学べるクイズラリーへ変更。正解数に応じて景品を配ると300人近くが参加し、解

## 目指せ、 広報力アップ!!

〈山形〉  
特別養護老人ホーム  
愛日荘  
副主任生活相談員  
高橋 睦



筆者(写真左)

## 職員の広報意識向上を目指し 心を打つ良い写真を追求

愛日荘では2015年から、その一年間に撮影した写真のコンテストを行なっています。「笑顔」「ふれあい」「いきいき」「アングル」「テーマ」

の5部門があり、エントリー作品を翌年2月に施設内に掲示。利用者さん・職員・来荘者の得票数が多い写真を家族会総会で表彰しています。このアイデアが生まれたのは2014年。多職種の会議で「有効な広報活動とは何か」を議論。そして視覚に訴える写真を上手に活用するこ



2017年度ふれあい部門入賞  
「秋の収穫～落花生 豊作～」



2019年度ふれあい部門入賞  
「やさしい孫の手「ばあちゃんおいしいよ」

とを目標に、フォトコンテストの実施が決まりました。リハビリテーション・レクリ

エーション委員会を中心に運営し、たくさんの人に施設の出来事に興味を持ってもらえるよう、1階ホールを展示会場にしました。初年度は特別に、開設35年の歩みを振り返る大量の写真を掲示したので、準備に時間も手間もかかったのを記憶

しています。2年目以降は、その経験を生かして各委員に役割を分担し、運営もスムーズになりました。

**写真を通じて広がる  
コミュニケーションの輪**  
コンテスト開催中は利用者さんと職員が一緒に写真を

を見て、うれしそうに話したり、投票したりする様子が見られます。ご家族からは「毎年楽しみにしているんだよ」との言葉もあり、職員のやる気につながっています。コンテ

説付きの回答用紙を渡すと「なるほど勉強になった」と、うれしい声もたくさん聞きました。地域支援活動を通して、職

を超えた顔の見える関係作りができたことは大きな成果です。そのみんなが力を合わせて、住民一人ひとりの「その人らしさ」

を支えることができるように、地域全体の医療従事者の実践力アップは欠かせません。今後も私たちの活動を評価し、日々

ラッシュアップしながら、この活動を継続していきます。  
(文責・緩和ケア認定看護師 平澤和美)

#112

わたしたちがしたい看護

業務に追われ、自分がしたいと思う看護を忘れがちになってしまうとき、看護師になって初めて受け持った80代の女性患者さんのことを思い出す。

肺炎と心不全で入院していた患者さんは、話をするだけでも息切れしてしまう。それでも、スタッフと話をしたがる。私は、「大変なのになぜ?」「静かに横になっていればいいのに……」と思っていた。

その日は、いつも以上に苦しそうなので、「少しでも楽になれば……」と思い、手浴

と足浴をした。すると、「私ね、一人でいると不安なの。そばに誰かいると安心。だから、つい声を掛けちゃうの」そう話し終えると、苦しそうな表情は消え、笑顔になっていた。

看護師は、患者さんが安心して療養できるように、どんなことをしてあげられるだろうか。仲間と一緒に話し合った。自分一人では考えられなかった看護をすることができた。彼女が亡くなるその日まで。

主任になり手術室勤務となった今、病棟での日々と比べ、患者さんに関わることは少ない。それでも、患者さんの手術に対する不安や術後の回復への期待……。そのことに向き合って、スタッフ全員で安全な手術をする。私たちがしたいと思ってる看護は、これだ」と言えるように。

(静岡・病院)



写真と筆者は異なります

投稿募集： ご自分のことやまわりで見かけた、「ナースのちょっとしたいい話」を募集しています。笑える話も大歓迎。原則として500字以内。匿名(謝礼送付の関係から応募は実名)で、法人ホームページにも転載されることがあります。広報室ナース係へ(メール:koho@saiseikai.or.jp 手書きの場合は郵送または FAX 03-3454-5576)。



家族会でコンテストの写真をスライドショー

トを見た地域の写真屋さんから「特別なカメラを使わず、これだけの写真を撮れるのはよいですね。ぜひ継続してください」と、うれしいコメントをいただいたこともあります。

今年で6回目のコンテストは、年を追うごとに、良い写真が増えています。場面やアングルを工夫し撮影する意識が、職員に根付いてきたためです。こう



投票結果を確認する職員

した写真が増えたことで、おのずと広報物作成の意欲向上にもつながっています。コロナ禍の現在は、職員が撮った写真は社内広報などで発信しています。

フォトコンテストの開催は「ここで働く職員全員が、施設の広報活動を担っている」という自覚を促す重要な役割を果たしています。各職員が、施設の関係者や地域社会に対して事業内容を正しく分かりやすく伝え、透明性の確保やよりよい信頼関係構築につながるよう取り組みの充実に努めます。

Nursing now

[https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing\\_now/nncj/](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/)

済生会の看護力が地域をつくる

看護職にフォーカス Nursing nowキャンペーン展開中

2020年はナースが誕生して200年。世界保健機関(WHO)と国際看護師協会(ICN)が連携し、看護職が持つ可能性をさらに広げる世界的キャンペーンを繰り広げています。済生会の看護職も、地域をさらに健康にするため、医療機関の枠を越え福祉を支える活動へと踏み出しています。

# 新型コロナウイルスとの 戦いの記録

全国済生会福祉施設長会

## 看護部長会が コロナ対策Web相談会



介護施設にとって頼もしい一冊に

済生会の看護部長会と福祉施設長会は11月9日、済生会の福祉施設を対象に新型コロナウイルス感染症対策について、Zoomを使用したりモット研修&相談会を開催、特養など50以上の施設が参加しました。

感染管理認定看護師が「高齢者福祉施設に感染症を持ち込まない対策」「職員及び利用者による陽性者が出た時の対策」を講義、福祉施設でコロナの陽性者が出た場合のゾーニングや個人防護具の使用などを学びました。

相談会では、面会の制限緩和をする際の注意点、フロアの中央に位置している多床室で感染者が出た場合の対応方法などの質問がありました。

看護部長会は7月に「済生会高齢者福祉施設感染対策マニュアル」を作成、福祉施設に配付しました。各施設で活用されています。

済生会の医療と福祉の連携を実感するとともに、安心して施設を運営することができています。(会長 森本尚俊)

### 〈栃木〉宇都宮病院 医療従事者を もっと増やそう ECMO講習会

日本COVID-19対策ECMO Net(エクモネット)が10月24日、新型コロナウイルスの重症患者に対する人工呼吸管理とECMO管理についての講習会を宇都宮病院で開催。エクモネット統括で、宇



VRを使用した講義

団体・エクモネットは、ECMOを有効・安全に扱える人材育成の講習会を各地で開催しています。

同日は、栃木県内の医師・看護師・臨床工学技士など32人が



ECMOを使用した疑似体験

参加。小倉センター長らが開発したバーチャルリアリティ教材を用いた講義と、人形を用いたECMO治療の疑似体験を行いました。

小倉センター長は「ECMO

は重症患者治療の最後のとりで。緊急時は一秒を争って対応する必要があります。日ごろの訓練が欠かせません」と述べました。

当日はNHK宇都宮放送局・下野新聞の取材が入り、講習会

の様子が報道されました。  
(済生記者 川原彩花)

### NPO幡ヶ谷再生大 から手作りガウン 1158枚

〈東京〉中央病院

中央病院に1158枚の手作りビニールガウンが、この7月届けられました。

贈り主は自然災害などの復興支援に取り組むNPO法人幡ヶ谷再生大学復興再生部。その立ち上げメンバーと岡山済生会総合病院の医師が旧知の仲で、当院の中澤敦消化器内科部長に情



TOSHI-LOWさん(左)と中澤部長

報提供いただき実現したものです。

ガウンは学長でミュージシャンのTOSHI-LOWさんから直接、中澤部長に手渡されました。「テープではなく、熱で接着させた方が心地がいいのではないかな」など、みなさんで工夫しながら作ってくれたそうです。

そして「自宅からでも、最前線で頑張る医療従事者のためにできることがあるのは、みんな本当にうれしく思っています」の言葉に感激しました。

全国各地から寄せられる医療物資の寄贈や感謝のメッセージは本当にありがたいです。  
(済生記者 佐藤弘恵)

都宮病院の小倉崇以・救命救急センター長が講師を務めました。ECMOは操作が難しく、専門的に扱える医療従事者が少ない点が医療現場の課題です。そうした中で、新型コロナに対するECMO治療を提供する有志



### 特別支援高等部から 金属板で折った鶴

〈佐賀〉唐津病院

コロナ終息の願いを込めて、佐賀県立唐津特別支援学校高等部の皆さんが金属板で折った折り鶴21羽を、10月28日に寄贈いただきました。

生徒6人が来院し「コロナの現場で働く医療従事者に頑張っ  
てほしい」とエール。園田孝志



院長は「われわれも頑張るので、皆さんもこの折り鶴のように世の中に羽ばたいてください」と謝辞を述べました。

折り鶴は真鍮・アルミ・銅板製で9センチ四方の透明ケースに入っています。板金加工の道具で折るのはとても力がいる作業で、ケガをしたり、筋肉痛が出たそうです。

そんな力作の折り鶴は、院内各フロアに数羽ずつ展示。生徒の思いは折り鶴の翼に乗って職員の人に届いたようで、「とてもきれいだ」「金・銀・銅の3色でメダルをもらったみたい」など一同で感激しています。

(済生記者 相島蘭香)

### 地区住民の要望に応え 佐々木副院長らが講演

奈良病院

奈良市社会福祉協議会が10月25日に開催した奈良市二名地区福祉大会に、佐々木義明副院長、松田知代看護師長と地域福祉支援室スタッフ3人が参加しまし



た。コロナ禍で参加人数を限定し、換気・検温・手洗い・消毒に十分配慮した開催です。

コロナ対策について知りたいとの地区住民の要望に応え、佐々木副院長は「新型コロナウイルス

### 隣接の都立三田高で 感謝の文化祭垂れ幕

〈東京〉中央病院

ルス感染症の現状とインフルエンザ流行期をむかえての対策」松田看護師長は「日常生活での感染症対策」について講演。また、地域福祉支援室スタッフが無料低額診療を紹介しました。

参加者は「テレビ報道なども見ているが、県内の動向や医療現場の現状を実際に知ることができてよかった」「マスクの正しい使用方法を聞いて勉強になった」などと話していました。

(地域福祉支援室 伊藤和代)

中央病院に隣接する都立三田高校は2020年11月2日・4日に開催した文化祭「再彩祭」で、当院の職員に向けたエールの垂れ幕を掲げてくれました。文化祭執行部が、全国に広まる医療従事者の応援キャンペーン「MAKE IT BLUE」への参加を企画。「医療従事者に少しでも笑顔を」と実行に至ったそうです。

全学年から有志8人が集まり、1・2年生67人で制作。青色の



メッセージが添えられた100通以上のハガキが届きました。

ハガキには「がんばってください」「びょうきからまもってください」「びょうきからまもってください」「コロナにまけるな!!」といった励ましやお礼の言葉とともに、子どもたちの塗り絵が描かれています。日々新型コロナウイルスの脅威と戦う職員は、大きな活力をもらいました。

このハガキは、患者さんや来院者など多くの人たちに見てもらえるように、1階外来待合ロビーに掲示しました。

(済生記者 塚本崇基)

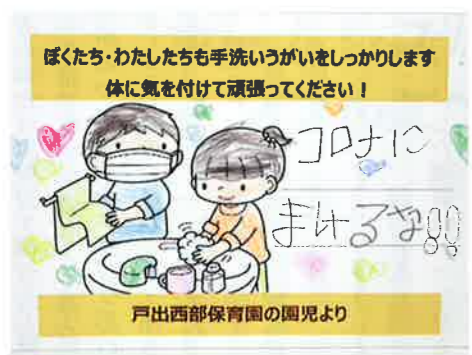
### 「コロナにまけるな!!」 保育園児からエール

〈富山〉高岡病院

布に感謝の言葉やイラストを描いています。文化祭実行委員から事前連絡を受けた当院広報室は、その様子を「広報ニュースレター号外」を発行し院内へ周知しました。垂れ幕を見た多くの職員から「ありがとう!」「すごく感激しました!」など、生徒への感謝のメッセージがたくさん寄せられました。

(済生記者 佐藤弘恵)

地域の保育園に通う子どもたちから9月14日に、温かい応援



ぼくたち・わたしたちも手洗いがいしょがしっかりします  
体に気を付けて頑張ってください!

コロナに  
まけるな!!

戸出西部保育園の園児より

## 更生保護施設・草牟田寮で無料健診を実施

### 〈鹿児島〉川内病院



新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年11月を最後に延期していた更生保護施設・草牟田寮での無料健診を、11月15日に実施しました。

寄山敏男院長をはじめ、看護師・臨床検査技師・健康福祉課職員の計8人が健診に当たり、職場で健診を

済ませた3人を除く寮生18人が受診しました。

コロナ禍の感染対策で十分な換気と3密回避のため、採血・インフルエンザ予防接種・健康相談の各テーブルを受診者が一人ずつ回れるよう配置を工夫。受診者と施設職員の協力に加えて、当院職員がこれまで培って

## ホームレスなどに インフルエンザ予防接種

### 福岡総合病院

ホームレスを対象としたインフルエンザの予防接種を10月28日、当院と隣接する天神中央公園で実施しました。当院は、なでしこプランの一環で行政やNPOと連携し、この活動を続けていきます。

接種後には、おにぎり・お茶・靴下を提供。接種後の注意点を説明し、希望者には健康相談・生活相談も行ないました。



きたノウハウと連携を生かした対応で、健診は安全・スムーズに終了できました。

同寮の鳩宿文男施設長からは「寮は集団生活のため、3密対策、消毒の徹底など、クラスターを発生させない配慮を行なっ

ているが、一番の対策は寮生の健康管理であり、この健診は本当にありがたい。ぜひ今後も継続してほしい」と感謝の言葉をいただきました。

(済生記者 竹之内美和)

健康講座 10月30日(金)  
13時30分～  
山手地区公民館  
伊勢町1丁目1番1号

感染症・季節症について

「新型コロナ時代のインフルエンザ対策」  
「簡単!できる感染症対策」



受講者からは「分かりやすい解説で大いに参考になりました」「手洗いの方法を見直し、家族にも説明します」などの感想が聞けました。

今回の講座は演者監修の下、当院ホームページ

総合学習の授業に、医療従事



近隣の松阪市立第四小学校6年生が11月4日、当院スタッフへの感謝の気持ちを込めた寄せ書き色紙を持ってきてくれました。

### 小学生から 「ありがとう」

#### 〈三重〉松阪総合病院

1ジを通じ公式YouTubeで動画を公開する予定です。

(済生記者 橋本 茜)

## 山形霞城ライオンズ クラブから防護服

### 山形県済生会

山形霞城ライオンズクラブから山形県済生会の福祉施設へ防護服150着を寄贈いただき、11月12日に山形済生病院で贈呈式が行なわれました。同クラブは毎年、山形県済生会の福祉施設の車いす清掃などの奉仕活動

(済生記者 鈴木宏次郎)

新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ終わりませんが、児童の思いに伝えられるよう職員一丸となって業務に邁進していきます。(済生記者 田端雄輔)



で支援いただいている組織です。

この間、新型コロナウイルスの感染対策でマスク・手袋など衛生用品確保に努めてきましたが、防護服まではなかなか手が回らず不足気味でした。いまだに終息が見えず、いつ、どの施設でクラスターが発生してもおかしくない状況の中、今回のような感染対策に役立つ物品の寄贈は大変心強く、職員一同感謝しています。各施設で大切に使用します。

## インフルとコロナ対策を 公民館で解説

### 〈大阪〉吹田病院

吹田市山手地区公民館から依頼を受け、10月30日に地域密着型健康講座「感染症・季節症について」を同所で共催し、地域住民17人が受講しました。

講座は「新型コロナ時代のインフルエンザ対策」(竹

中英昭・副院長兼呼吸器内科科長)と、「簡単

にできる感染症対策」(藤本憲明・感染管理認定看護師)の2題でした。インフルエンザにも新型コロナウイルス感染症にも注意が必要な今冬を前に、対策方法を詳しく伝えました。

## 「誰一人取り残さない」私たちのチャレンジ

### 〈山形〉特養ながまち荘



当施設は、刑余者の就労支援・再犯防止の推進、障害者・高齢者の社会参加など、SDGs（持続可能な開発目標）を積極的に実践しています。  
例えば刑余者支援では、従来行なってきた保護観察者の社会貢献活動の受け入れにとどま

施設インフルエンザ予防接種事業」も併せて実施。事前に、市職員と市内3カ所の一時生活支

援施設長を当院に集めて事業内容を説明。初めての試みでしたが、市の協力の下で問題なく終了しました。

### 〈大阪〉中津病院

## 大阪保護観察所から感謝状

大阪保護観察所の鈴木庄市所長から当院の川嶋成乃亮院長に

らな活動に深化。具体的には、再犯防止のための刑余者雇用を促進し、孤立防止に向けた保護観察所・更生保護施設などの連携も強化しています。

まだまだ手探り状態ですが、済生会創設の理念を念頭に、取り組みをさらに発展させ、「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向けて努力しています。その内容をわかりやすく可視化し、社会に広く知ってもらう工夫も行なっていく予定です。  
詳細は「Challenge2030『ながまち荘におけるSDGsの取り組み』」としてホームページにまとめてあるので、ぜひご覧ください。  
(管理課長 岩崎勝也)

了でき、来年度以降も継続実施を要請されました。  
同日の予防接種はホームレス

11月12日、感謝状・記念品が贈呈されました。  
当院は2010年以降、な

でしプラン推進を掲げ、大阪保護観察所と連携して、近隣の更生保護施設和衷会の入所者さんへの診療や、大阪府済生会8病院での健診事業などに取り組んできました。

こうした貢献に対して今回、和衷会から推薦をいただき、感謝状などの贈呈が決定。贈呈の場には、濱中浩孝事務部長・今西裕子看護部長・東川雅彦地域医療連携センター長・MSW 2人が同席しました。  
鈴木所長から更生保護への尽力に謝辞



をいただいた川嶋院長は、「済生会としては当然のこと、今後も社会的使命を果たしていきたい」と、更生保護の一翼を担う決意を新たにしました。  
(生活福祉相談課 富士川浩子)

25人、福岡市一時生活支援施設入所者29人に実施しました。  
(済生記者 小田温子)

## 若者や学生を応援する食料品配布と相談会

### 〈栃木〉宇都宮病院



コロナ禍で困窮し自殺が増えている若者・大学生を対象に10月31日、食糧支援を実施しました。  
当院の荻津守参与（MSW）が呼びかけ、NPO法人フードバンクうつのみやと連携して実施。当院は非常時備蓄品のパンの缶詰312缶を提供、賛同した地域の病院等からも3キログラムの新米120袋やお菓子・レトルト食品などを供出していただきました。

また、困った時の相談窓口「いのちの電話」や「よりそいホットライン」などにも協力を呼びかけ、リーフレットや連絡先を記したポケットティッシュなどの広報物も用意し、食品に同封して配布しました。  
当院のMSW以外に、栃木県職員や宇都宮の市保健所・社会福祉協議会、報徳会宇都宮病院などが参加し、地域の相談窓口が一堂に会したワンストップの相談で、顔の見える連携をさらに強化できました。

訪れた人は「アルバイトも帰国もできず困っている留学生ですが、食品をもらえた上に、仕事の世話までしてくれ感謝している」「食べるのに精いっぱい、病院へ行くお金がなく困っていたが相談できると分かってよかった」と述べていました。  
(地域連携課 秋山綾香)

### 宇都宮病院

## 「被害者は地域全体で守る」性暴力を考える講座



講演では、家で過ごす時間が増え、家庭内の性的虐待やDV被害が増加している。コロナ禍の状況を説明。特に、自粛が緩和された6月以降に相談が急増していることに触れました。  
荻津参与は「相談に至らない潜在被害者は大勢いる。どこからでも相談支援につながるようネットワークを広げ、地域全体で守るというみなさんの意識、すなわち「地域力」が大事」と、相談支援に携わる70人の参加者に熱く語りました。

栃木県・NPO法人ウイメンズハウスとちぎ主催の「性暴力を考える講座」が10月12日、とちぎ福祉プラザで開催され、性暴力被害者支援センター・とちぎエールの担当責任者・荻津守参与（MSW）が講師を務めました。

今後地域全体に対する働きかけを続け、地域力で被害者を守る意識づけを進め、ソーシャルインクルージョンを実現させていきたいと、荻津参与は述べています。  
(地域連携課 秋山綾香)



たかはし・あやか 元バドミントン日本代表。1990年奈良県生まれ。6歳からバドミントンを始め中学から親元を離れ名門聖ウルスラ学院英智中学校へ。高校時代に1年後輩の松友美佐紀選手とペアで全国大会で活躍。2009年日本ユニシス入社、引き続き松友選手とのダブルスでヨネックスオープン優勝をはじめ世界の大会で好成績を重ね、長く世界ランキング1位を維持した。2016年リオ五輪で日本バドミントン史上初の金メダルを獲得。2020年現役を引退。松友選手は混合ダブルスで現役続行



16歳から引退するまで13年間ペアを組んだ1学年下の松友美佐紀選手(左)。ロンドン五輪の銀メダル(藤井・垣岩ペア)を見て「次は私たちの番!」と、「金」だけを目指して戦ってきた。「お互いがバドミントンを一番に考えて行動しました。2人が同じ気持ちじゃないと絶対に無理だったと思う」と高橋さん

## バドミントンの神様が

### 2人の努力を見ていてくれた

リオ五輪決勝では、フルセット15対19から5ポイント連取という、まさに崖っぷちからの逆転劇で世界の頂点に立った。試合中はあまり話さないという。緊張する局面では「声がけより黙ってプレイで助ける」タイプ。「金メダルを取る人たちって何が違うんだろう? とずっと思っていました。でも実際自分が

なってみたら、何が違うのかまったく分からなくて(笑)。私たちは当たり前のことしかしていません。でも、その『当たり前』をコツコツ10年間続けました。大げさかもしれませんが、バドミントンの神様がそれを見ていてくださったのかなと思います」と現役時代を振り返る。そして、その経歴を今後は子

どもたちとのふれあいの場を作

って伝えていきたいという。

また「カフェとお笑いが大好き」という高橋さんには、自分がプロデュースしたメニューをキッチンカーで提供してみたいという新しい夢も。

といってもこれは飲食店が少ない体育館の話。スポーツ観戦の空間をもっと楽しく豊かにするチャレンジだ。

現役時代はケガで休むことも

ほとんどなく病院とはあまり縁がなかった高橋さんだが、「母が医療事務の仕事をしているので、実際の現場は報道されているよりももっと大変なのだろう」と想像します。

簡単に『頑張ってください』とは言えませんが、早くコロナ禍が落ち着くことを願っています」と、医療現場にエールを送った。

今年8月末、リオ五輪金メダル

「タカマツペア」を解消、現役を引退した高橋さん。

「すべてやり切りました。悔いはありません」思いがあふれた

涙の引退会見から新たなスタートへ。そこには、笑顔で前を向く

高橋さんの姿があった。

Text: 栗原潤子

Photos: 吉川信之

# 高橋礼華

Ryoko Takahashi



Vol. 127

# 口福につぼん

吉井省一



済生会の「病院・施設」がある  
県内の市町村

よしい・せいいち コピーライター・作詞家。老舗百貨店の食の通販誌では約30年にわたって執筆に携わり、全国各地を取材。試食した食品の数は1万点を超える。

① 一番好きな炊き込みご飯の具は何ですかと聞かれて、即答できる方は少ないのではないのでしょうか。何しろ、日本には、松茸、筍、栗、山菜、芋、いか、たこ、えび、かに、鶏肉など、旨みがたっぷり詰まった具がバラエティ豊かに揃っているのですから。

関西の方には「かやくご飯」という名称の方がしっくりくるかもしれません。炊き込みご飯は冷めても美味しいので、釜めしなど全国各地の駅弁などにもよく使われています。

かくのごとく、みんな大好き、炊き込みご飯。しかも、今回ご紹介するのは、セット名が「多喜込物語」。何だか縁起がよさ



具材の充実度はご覧の通り。鯛の切り身は特に大きく、食べ応え十分

そうだし、どんどんおかわりしてしまいそうなネーミングじゃありませんか。ご期待ください。

たのは、明治27年

## 39 広島めし三味 多喜込物語《たわら》

広島県 安芸郡 海田町

創業の魚屋さん「たわら」。三代目のご主人の頃から始めた食堂は、魚を知り尽くしたプロの直営ということに評判を呼び、海鮮丼で人気のお店になりました。

「広島めし三味」は、四代目が確かな目利きで選び抜いた魚介を、父である三代目が素材の味を最大限に生かす味付けで仕上げた、親子二代にわたるコラボレーション商品です。

こちらの炊き込みご飯の特長は何と言っても広島県産の厳選された食材。大ぶ

りの鯛や穴子、粒よりの牡蠣など具がたっぷり。炊き込みご飯の具が小さくてちよっぴりなんてダメ。がっつりお腹いっぱいいただくのが、ニッポンの炊き込みご飯なのです。

炊き上がり後に具を加える混ぜご飯もありますが、やはり私は、しっかり味がしみ込んだ炊き込みご飯に軍配を上げたいと思います。

湯気の先まで旨いっ！  
これぞ瀬戸内の恵み

それではさっそく、炊き込み作業に入りましょう。と言っ

常連客を迎える、自慢の食材や料理が描かれた店内



協力：SHUN GATE



搭載の炊飯器さえある令和の世の中。

そして、いよいよ炊き上がり。の時。ふたを開けるや、ふわっと上がる湯気の中、炊き込みご飯ならではのあの幸せな香りが台所に漂います。ご飯茶碗によそって横からしみじみと眺めると、ああ、気持ちよさそうに立ち昇る湯気の先っぽまで美味しそう。仕上げの彩りに、三つ葉



お米・出汁・水と一緒に電気釜で炊き上げるだけで、広島めしのできあがり

や浅葱などを盛り付けたくなり

ます。それでは、まず、瀬戸内海育

ちの「鯛」から。ところどころ付いた焼き目が食欲をそそのかすところに。引き締まった

身をひと口噛むと、甘みがあふれて、他におかずや漬物など無くても、思わず「おかわり！」。気になる小骨を取って調味してあるのもうれしい心配りです。

「穴子」はふっくらとした口当たりが心地良く、甘辛いたれで時間をかけて煮上げてある身は、広島名物の穴子煮饀りの味わい。一度炊くことで気になるくさみも抜けているので、独特な旨みを心ゆくまで味わえます。

磯の香りがほんのり口の中に広がる「牡蠣」は、海のミルクと呼ばれる濃厚な甘みが十分に引き出されていて、ご飯との相性がぴったり。牡蠣のぷりぷりした食感とご飯のもっちりした食感のハーモニーは牡蠣ごはんならでは。

瀬戸内海の恵みをたっぷり堪能できるこの贅沢な炊き込みご飯。まだまだ自由気ままに旅行

できない昨今、広島への旅情をお腹いっぱい楽しめる、この「多喜込物語」などいかがでしょうか。

広島めし三味セット 多喜込物語  
[鯛・穴子・牡蠣 各1袋(だし180g、具)計3袋]  
4,860円(税込・送料別) 賞味期限……常温180日(製造日より)

お取り寄せ・お問い合わせは  
魚食堂 たわら  
〒736-0032 広島県安芸郡海田町南幸町6-11  
TEL: 082-821-2037 FAX: 082-821-2038  
営業時間: 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、指定休業日を除く)  
[店舗] 11:00 ~ 15:00 17:00 ~ 21:00 (水曜定休)  
ホームページ: <http://www.hiroshima-meshizanmai.com/>







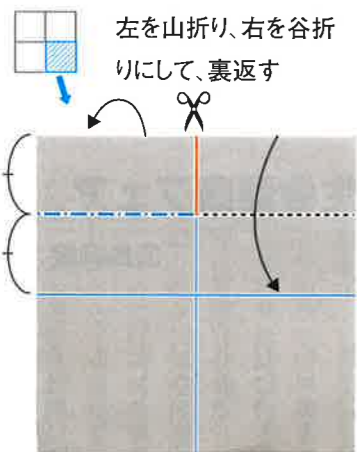
# おめかしウシの 新年ごあいさつ



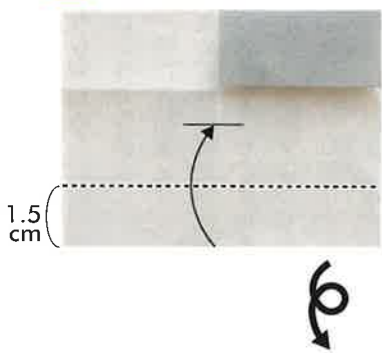
--- 山折り  
- - - 谷折り  
↺ 裏返す

## ウシ・顔

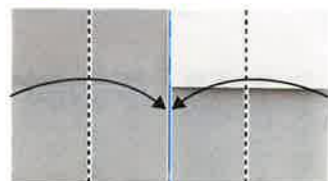
**1** 1/4に切った折り紙に  
折りすじをつけ、図のよ  
うに切り込みを入れる。  
左を山折り、右を谷折  
りにして、裏返す



**2** 下の辺を1.5cm  
折り、裏返す



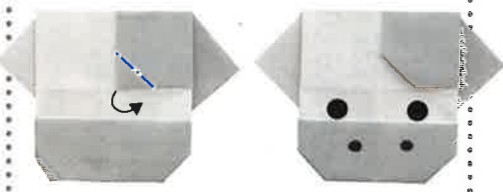
**3** 左右の辺を中心線に  
合わせて折る



**4** 図のように左右に開き、  
下の両角を折り、裏返す



**5** 図のように折り、シールやサイン  
ペンで顔を描く

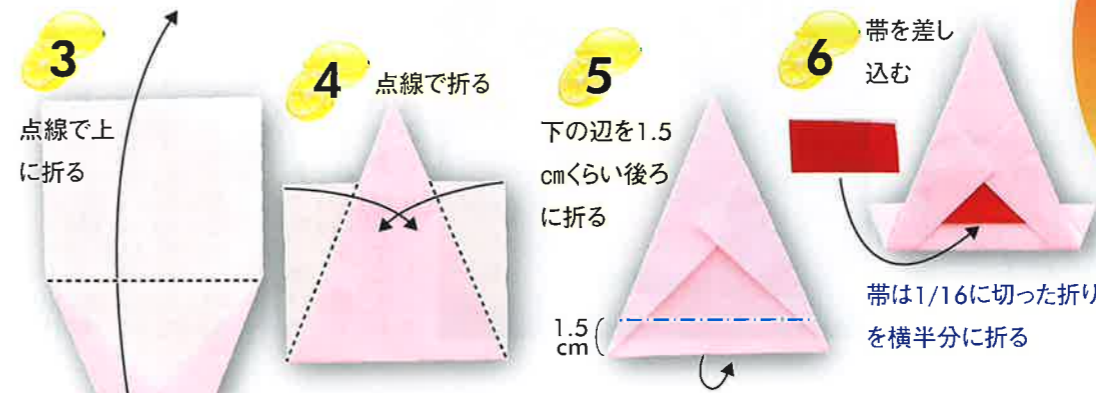
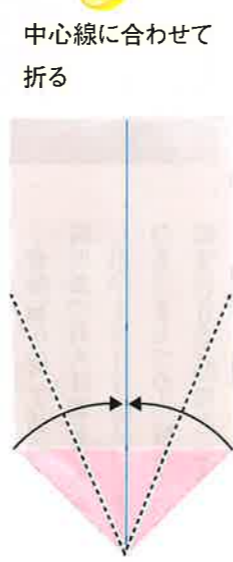


## ウシ・きもの

**1** 1/2に切った折り  
紙に中心線をつけ  
て下の両角を折る



**2** 中心線に合わせて  
折る



だれでもかんたん  
てづくり  
おもちゃ

帯は1/16に切った折り紙  
を横半分折る

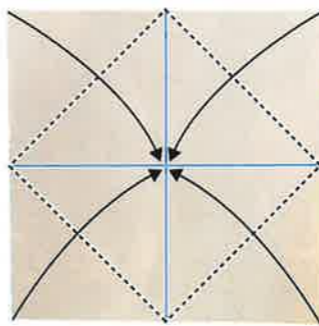
## ウシ・完成

顔と体をのり付けする



## 扇・扇面

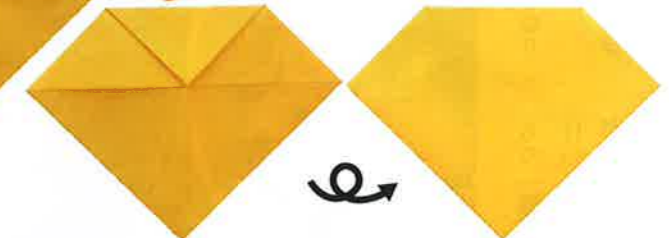
**1** 折り紙の四つ  
の角を中心にあ  
わせて折る



**2** 上の角を中心にあ  
わせて折る

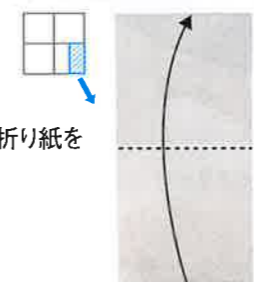


**3** 裏返す。これを2枚つくる

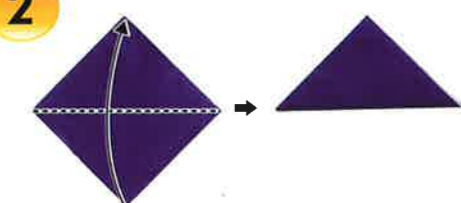


## 扇・かなめ

**1** 1/8に切った折り紙を  
半分に折る



**2** 半分に折る



## 扇・完成

**1** 2枚の扇の★と♥を合わせ  
てのり付けする



**2** 下の角を  
かなめではさん  
でのり付けする



## 完成

扇にウシを貼り、シール  
などで飾る



松は梅の花形スタンプの  
上部分を切って作るとかんたん!



**【いまいみさ】**手づくりおも  
ちゃ作家。折り紙や牛乳パック  
などをリサイクルして手づくり  
の楽しさを伝えています。著  
書に「12か月のおりがみ壁  
飾り」など34冊。2011年から、小学校2年の教  
科書「こごご」(三省堂版)にも登場。最新刊は  
「季節のおりがみ つり下げ飾り」(講談社)

おりがみ協力:株式会社トーヨー



新湊大橋(富山)  
撮影 済生会本部 広報室 河内淳史

# topics

## 予約制で済生会健康フェア

広島病院

当院に隣接するショッピングセンター・フジグラン安芸との共催で、11月7日に済生会健康フェアを初開催しました。地域の健康生活支援と当院の知名度アップを意図した企画です。健康・介護・医療費に関する相談、骨密度・血管年齢の測定、リハビリスタッフによる体力測定を実施。ほかにも、「認知症について」の医師講演や、子ど



も楽しめる手洗い体験・エプロン作り体験などのコーナーも。特に各種測定ブースが人気を集め、地域住民の健康への関心の高さを改めて感じました。しかし、感染予防で事前予約制としたため、お断りせざるを得なかった人が多く残念でした。初めての試みでしたが、来場者数は予想を上回る約300人。地域に出て活動する意義を、改めて実感しました。

(済生記者 細川佳緒理)

## 3000時間の山崎さんらボランティア活動を表彰

〈愛媛 今治病院〉

10月14日にボランティア活動表彰式を行いました。

当院では、ボランティア活動が通算500時間を超えるごとに表彰を実施。今回は、3000時間達成の山崎臣也さんと、1000時間の山田邦子さん・中矢友江さんの3人を表彰しました。

ボランティア活動1000時間までの人は珍しくありますが、1000時間以上は少なく、ましてや山崎さんのように3000時間となるとなかなか

なかないません。

82歳の山崎さんはボランティア歴15年。きっかけは当院勤務の娘さんの勧めで、主に外来で自動受付機等の操作案内や院内の案内・誘導など患者さんの介助業務をお願いしています。

表彰式では松野剛院長から「患者さんが院内で気持ちよく過ごしやすい環境に受診できるのは、ボランティアのみなさんのおかげです。新型コロナウイルスが落ち着いたら入院でも再開し、傾聴ボランティアなどをお願いしたい」と、ねぎらいの言葉が贈られました。

い」と、ねぎらいの言葉が贈られました。

(済生記者 越智美華)

## 初めてのオンライン採用面接

〈鹿児島 川内病院〉

来年度の看護師の採用面接を、9月30日に初めてオンラインで行ないました。

当院には毎年「帰郷して就職



したい」との応募が多数あります。しかしコロナ禍の今年、県外の応募者には14日間の行動制限が求められ、面接の壁になっていました。

そうした折りに、リモート採

## 看護部平成の歩みを一冊に

〈山口 下関総合病院〉

10月1日、看護部で平成31年間の軌跡を後進に伝えるためにつくった冊子「みんなに伝えたいなでしこの心」が出来上がりました。

師長会が「患者の側を離れる時の5つの声かけの始まり」「内服時の水の準備について」など、この間に看護部が行ってきた主な取り組み12例を厳選。平成初期については明確な事情を知る職員がおらず、歴代看護部長が記した年報を見たり、直接お

話を伺ったりして、ひもどくに苦労しました。

出来上がりをみると、患者に寄り添い良い看護をしたいという看護部の魂「なでしこの心」が誌面からも伝わってきます。脈々と受け継がれてきたものを次世代に継ぐ使命感を改めて感じ、未来を見据えた新たな一歩をみんなで行きたいと思いました。

(副看護部長 関野尚子)



園児の命を守る訓練

〈愛媛〉松山乳児保育園

11月5日、松山市消防局の署員3人を招き、園児51人・職員21人で通報・避難・消火訓練を実施しました。毎月実施する避難訓練以外に、今回は実際に119番に通報して被害状況などに応答する通報訓練も行ない、少し緊張しました。

園庭では、消火器の使い方の説明を受けた職員が消火訓練を実施。うまくできると「先生すごいねー」と子どもたちが拍手してくれました。

当園では火災のほか、地震の二次避難や不審者などを想定した訓練も行なっています。大切な子どもたちの命を預かっていることを改めて心に留め、いかなる緊急時にも全職員で迅速に行動したいと思いました。

訓練後、消防自動車を間近で見せてもらいました。子どもたちはレバーやスイッチ、タイヤに触れ、大きなホースを持たせてもらうなど、うれしい体験もできました。



栄養管理科が  
厚生労働大臣から表彰

〈山口〉下関総合病院

当院の栄養管理科は8月22日に、令和2年度栄養関係功労者特定給食施設部門で厚生労働大臣表彰を受賞しました。

1959年の開院以来、62年に渡り給食を提供してきた当科。現在は委託も含めて管理栄養士・栄養士7人・調理スタッフ22人の人人体制で、①安全で衛生的な食事の提供②おいしくて心の通う食事の提供③チームで取り組む栄養管理——を motto に、季節を感じ、喜んでい



ただける食事提供を実践していきます。

この受賞を励みに、これからも病態に合わせた食事を安全に提供する事で患者さんの治療に寄与することを意識して、さらなる研鑽に努めていきます。

そして患者さん一人ひとりに私たちの思いが伝わるように、スタッフ一同心を込めて丁寧な食事提供を心がけます。

〈栄養管理科 小島祥子〉

心臓血管外科セミナー  
下関総合病院

研修医の技術向上を目指して、心臓血管外科セミナーを10月22日に開催しました。当院の医師・研修医・看護師・臨床検査技師・臨床工学士のほか、地域の医師・研修医も来院し、約60人が参加しました。

まず豚の心臓を用いて、心臓・大血管を解剖し詳しく解説。次に、心臓血管外科の伊東博史副院長が、研修医に大動脈弁置換術・僧帽弁置換術・形成術の技術を指導し、看護師にはその介助をトレーニングしました。

参加した看護師は「スピードが求められる術中とは異なり、



で、現場で生きる満足度が高いセミナーになりました。

〈済生記者 新田和美〉

秋風が気持ちいい！  
紅葉狩りドライブ

11月4日・6日と9日の4回に分け、紅葉狩りに行きました。

〈山形〉特養山静寿

った入院患者さんや職員に見守られながら、小ぶりの芋をたくさん収穫できました。

ハロウィン前日だったので、収穫後はみんなで仮装。入院患者さんからお菓子を、中司謙二院長と村上道子看護部長からはラムネのネックレスを首にかけてもらい、子どもたちは大喜び。患者さんも「子どもたちに元気をもらった」とうれしそうでした。

成長したサツマイモと一緒に、子どもたちと患者さんの笑顔も収穫できた一日です。

〈済生記者 西田千鶴〉



今年にはコロナ禍でなかなか外出できず、施設生活が続く入居者さんからは外出希望の声をよく聞きます。そこで「少しでも外の空気を感じ、季節を味わっていたらいい！」と、紅葉狩り行事を企画。一日5人ずつ計20人を連れて行きました。

施設から車で30分ほどの、天童市にある山形県総合運動公園の銀杏並木へ向けて出発。あいにくの雨に見舞われた日もありましたが、晴れた日には降車して、公園を散策しました。帰りは、映画「おもひでぼろぼろ」の舞台にもなった高瀬地区方面



へドライブ。山々の美しい紅葉が映える風景を満喫しました。

入居者さんは、「外に出ることができて気持ち良かった」「紅葉がきれいだった」と、大満足の紅葉狩り行事でした。

〈済生記者 丹 秀樹〉

ハロウィンに芋掘り  
豊浦病院

豊浦病院併設の保育施設「ひびき保育園」の園児6人が10月30日、駐車場脇の「とよさい農園」で芋掘りに挑戦しました。

苗植え（本誌7月号掲載）から5カ月、サツマイモは園児たちの水やりなどの世話のかいあって、招かれざる客（おそろくシカ）に葉っぱを食べられながらも精いっぱい育ってくれました。

好天に恵まれ、30人以上集ま

診療放射線安全管理研修

奈良病院

医療放射線に係る安全管理のため、職員研修を、9月28日～10月31日の間に約40回実施し、全職員が受講しました。

この研修は、医療法施行規則の一部改正で4月に施行された診療用放射線の安全管理体制整備において、エックス線装置などを備える全ての病院・診療所に義務づけられたものです。



開催形式は実行委員会で検討し「15分以内・紙芝居形式の出前研修会」に決定。放射線科職員が講師として交代で各部署へ出向き、密にならない3～10人の少人数で、CT検査・MRI検査などの安全管理や注意点を説明しました。参加者からは多くの質問が出て、主体的に参加する中身の濃い研修になりました。

（医療安全管理室  
看護師長 丸山節子）

奈良病院

今年初の佐保川一斉清掃

「第11回川辺のまちづくりin大安寺西 佐保川一斉清掃」が11月3日に開催され、ボランティアで地域住民約150人が参加。当院からも6人が参加しました。

コロナ禍で3月・6月の「佐保川一斉清掃」や8月の「夏祭り」が中止となった中、自治会が万全の感染対策を講じ、今年初めての活動を実施することになったのです。

「久しぶり、元気にしてた?」「病院も大変だけど、いつもありがとう」「油断せず頑張ろう」



ね」と、久しぶりに再会した地域のみなさんから温かい声を掛けられ、本当にうれしく「頼りになる病院でありたい」と心から思いました。

残念だったのは、昨年度まで当院がオープンカフェで実施していたアロママッサージと医療相談のブース出展がコロナ禍でかなわなかったこと。代わりに今回は、地域住民の健康づくりのため、三笠地域包括支援センターが屋外で健康体操を行ないました。

（医療安全管理室

看護師長 丸山節子）

奈良病院

薬師寺で写経体験

2020年度採用の看護師5人が、看護部の新人研修の一環で9月24日に、当院近くの薬師寺で写経を体験しました。

普段は患者さんと向き合い多くの経験をしている彼女たちも、この日は看護現場を離れ、新たな経験に臨みました。みんなわくわく・ドキドキしながら、病院で患者さんと接するときとは異なる緊張感の中、一心不乱に写経に取り組みました。

熊本病院

おにぎり世界を変える、フォトコンテストですよ

職員に、おにぎり画像を募集する「SAIKUMA おにぎりフォトコンテスト」を10月に実施しました。

世界の食糧・健康問題の解決と、開発途上国に暮らす子どもたちの食糧支援を目指し、おにぎり世界を変える」とい



参加者は「いつもとは違う緊張がありました。この経験を臨床の場に生かしていきたい」と話していました。

（看護師長 阿佐智実）



う「おにぎりアクション」キャンペーン(TABLE FOR TWO International主催)の理念に賛同した企画です。同キャンペーンの期間中に「おにぎり画像」をSNSで発信すると、投稿写真1枚につき給食5食分がアジアやアフリカの貧困地域に暮らす子どもたちに寄付されるというもの。

約2週間のコンテンツ期間に、計40枚の応募があり、集まった「おにぎり画像」は当院の公式Facebookに投稿しました。誌面で紹介しきれない写真がたくさんあるので、ぜひ当院のFacebookをご覧ください。  
<https://www.facebook.com/skumamoto/>  
（職員健康管理室 長石幸奈）

日本医療経営実践協会の功労賞を受賞

日本医療経営実践協会が10月3日・4日に開催した第9回国医療経営士実践研究大会で、当院は功労賞(団体部門)を受賞しました。



同協会・地域支部が主催する事業・研究会で意欲的に活動する医療経営士を多数輩出し、その育成や質の向上、資格の普及に貢献したことなど、当院の功績が認められたものです。



具体的には、隔月開催の神奈川研究会のほかに、合宿研究会や他地域との合同研究会などを主催(コロナ禍ではオンライン開催も)するなど精力的に活動しています。

「こうした激動の時代に、医療と経営のバランスを取りながら現場で実践できる人材がいることは極めて重要で、その育成も当院の重要な使命」と、三井物産院長はコメントを寄せました。今後も地域医療全体の進展に貢献できる人材を育て、質の高い医療を提供し続けられるよう、いっそう努力していきます。

（済生記者 荒木愛美）

# topics



りました。  
(済生記者 松岡亜希)

## 飯塚嘉穂病院

### 屋上で 済生オリピック!

回復期リハビリテーション病棟の屋上庭園で10月26日に「済生オリピック」を開催し、約40人の患者さんと職員が参加



## 〈新潟〉 などで「青空保育園」 4・5歳児みんなで運動会

10月24日、三条市総合福祉センターで運動会を催しました。新型コロナウイルス感染予防対策で、今年は4・5歳児35人のみで実施。5歳児の和太鼓演奏で幕開けし、応援合戦・かけっこ・障害物競走で一人ひとりが力を十分に発揮しました。

最後は、みんなが楽しみにしていた4・5歳児混合リレーです。少し緊張気味の4歳児も次々とバトンを渡し、5歳児が登場すると一気にスピードアップ! 練習を重ねた子どもたちの「今日は勝つぞ」の思いで、応援にも自然と熱が入ります。負けたチームは悔しがっていましたが、みんな力で合わせるこの大切さや達成感を味わうことができました。コロナ禍の運動会は、声援に代わって拍手の応援が会場を包みました。  
(済生記者 梨本あゆみ)

## 〈福岡〉 飯塚嘉穂病院 第4回医工連携フォーラム

第4回医工連携フォーラム・ニーズマッチング会を11月2日、



ました。

イベントは演奏会で幕開け。金管楽器のユーフォニアムでTVアニメ「鬼滅の刃」の主題歌「紅蓮華」ほか1曲を演奏。続いてピアノ・ウクレレ・トロンボーン・サクソスが加わ



飯塚市内のホテルで開催しました。

当院は2015年から、地元・飯塚市のまちづくりに寄与するためにイノベーション推進グループを立ち上げ、行政や近隣病院、九州工業大学らと医工学連携に取り組んでいます。本フォーラムはその一環で、医療現場の困りごとやニーズを集めて製販（医療機器製造販売）ものづくり企業につなげ、医療安全・医療の質の向上、まちづくりへの貢献を進めるもの。  
基調講演「ウィズコロナ時代の医療機器開発戦略」（ニプロ株式会社・須藤浩取締役）に続き、飯塚病院・飯塚市立病院・当院が登壇しトークセッション。

未知のコロナウイルス流行により、生活スタイルなどが大きく変わった中で表面化した解決すべき課題を共有しました。その後のニーズマッチング会では、企業と各病院が個別面談でニーズを掘り下げました。  
(済生記者 松岡亜希)

## 飯塚嘉穂病院

### ハロウィン演奏会

ハロウィン演奏会を11月6日に緩和ケア病棟で開催し、患者さんはパンキンなどのお面をつけて参加しました。

原田由美看護師がウクレレで今井美樹の「PRIDE」を披露した後、喜多良晴主任作業療法士が金管楽器のユーフォニアムで山口百恵の「秋桜」など3曲で「情熱大陸」のテーマ曲など3曲をソロ演奏しました。

続いてピアノ・サクソ・トロンボーンが加わり、「パプリカ」など3曲を演奏。患者さんは演奏の合間に「がんばれ!!」と声援し拍手を送りました。

コロナ禍の今年、初めて開催したこのイベントは患者さんだけでなく、職員の癒やしにもな

## 〈大阪〉 中津病院 災害訓練にLINEを活用

2020年度災害対策訓練を10月31日に行いました。

今回はLINE WORKS（チャット・掲示板・カレンダーなどを集約したコミュニケーションツール）を用いた机上訓練に初挑戦。自治体を中心に、自然災害など緊急時のコミュニケーションにSNSの活用が広がっている動向を踏まえた対応です。大阪府下で震度6強の直下型地震が発生と想定。直後に、対



を、LINE WORKSのやり取りでコミュニケーション。各現場でも、災害時の動きや一連の流れを確認・検討しました。常に新しい情報を取得し、時代に即した災害対策を講じるこ

とが重要だと感じました。  
(済生記者 久原市子)

策本部を看護管理室に立ち上げ、地震発生時の館内放送などは行わず、LINE WORKSで各所に情報を発信しました。対策本部では、クロノロ（出来事の時系列な記録）の作成や、各種状況確認（空床、各部署の被害、被災者の受け入れ）など

福岡総合病院

吉村認定看護師が  
老健施設でスキンケア研修

福岡県済生会病院の吉村紀美枝・皮膚排泄ケア認定看護師が10月5日、老健ケアホームさいせいのスタッフ10人を対象に、スキン・テア（皮膚裂傷）研修会を開催しました。



加齢により皮膚が薄くなる・弱くなるなどの問題を抱えた利用者が多く、専門家にケアを学びたいと、老健のスタッフから依頼され実現しました。

「手や足だけを持って引つ張らない。手や足を持ち上げる時は、下から支えて持つ」——吉村さんは、風船を高齢者の皮膚に見立てて、介助者に求められるスキン・テアの予防策を実習。

それでもスキン・テアが発生した場合は「むけてしまった皮膚は絶対に捨てない。お湯できれいに洗って、皮膚をできるだけ元に戻してから処置すると痛みは少なくなり、傷も早く治ります」と呼びかけました。

参加者は風船を割ることなく優しくケアできていて、実りある研修となりました。

（済生記者 吉川千恵）

福岡総合病院

看護大学生の臨床実習を  
リモートで毎週実施中！

看護大学生のリモート実習を11月から2カ月間・毎週1回実施しています。

コロナ禍で、本年度の看護部臨床実習はすべて中止。しかし、実践的な臨床の学習機会を少しでも学生に提供するため、Zoomによる実習を企画しました。手術室とクリティカルケア（生命危機状態にある患者看護）の二つの実習を、79人の学生が3クールに分かれて受講します。

講師は勤務中の認定看護師が担当。臨床講義やディスカッションを通じて、その部署の看護の特徴やチーム医療における看護師の役割の理解を深めます。施設紹介や一部のケア方法の説明には、事前に作成した動画でわかりやすく伝えています。

看護大学からは「丁寧な説明に学生・教員一同感動しました。」



学生の立場になって対応していただき感謝しています」と、うれしい言葉をいただきました。

（経営企画課 木下昌子）

福岡総合病院

関節外科の水内主任部長  
緊張のテレビ初出演

11月14日放送の九州朝日放送「とっても健康らんど」に水内秀城・関節外科主任部長が出演しました。22年も続く歴史ある健康情報番組で、当院医師が多数出演しています。

今回のテーマは「ひざの痛み」。なぜか冬になると感じる膝の痛みの原因や予防法、痛みの多くを占める変形性膝関節症



について解説しました。最新の治療法や予防法を体験するコーナーでは、実際に人工膝関節手術で使用する器具や最新器械を紹介しました。

初めてのテレビ出演に緊張しつつも、水内医師は膝の痛みへの対処法を正しくわかりやすく伝えるため、番組スタッフと相

（岩手）特養百染苑

高校生が郷土芸能を披露

岩泉高校郷土芸能同好会の

メンバー22人が、10月24日に当苑を訪れ、地域に伝わる「中野七頭舞」を披露してくれました。

中野七頭舞は岩泉町小本地区に伝わる郷土芸能で、五穀豊穡・家内安全・大漁を祈願する勇壮活発な舞です。

同好会は全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門で優秀校に選ばれて、東京の国立劇場で舞ったり、岩手県のPRのためフランスのパリで演舞を披露したこともある強豪です。

新型コロナウイルス感染症予防対策で、窓1枚隔てての観覧でしたが、高校生の心温まる企画と勇壮な演舞に、涙を流

（山口）特養貴船園

研修で全職員の意識統一

全職員の意識統一を目的とした管理者研修と一般研修を10月16日に実施しました。より働きやすく魅力ある職場を目指して、昨年度から取り組んでいる働き方改革の一環です。

講師に迎えたのは、ワークライフバランスイノベーション研究所代表の藤原千晶さん。管理者研修には役職者14人が参加し、「イクボス」（男性従業員・部下の育児参加に理解ある上司・経営者）を目指し、リーダーシップのスタイルや、働き方改革を支えるため



の役割などについて学びました。一般研修には37人が参加。働き方改革の意識統一を図り、ワークライフバランスの重要性を学びました。意識改革につながったよう、受講後はポジティブな発言が増えていきます。

研修後、ワークライフバランス充実に向けて、各自が「明日から実践すること」（行動目標）を、振り返りシートに記入し可視化しました。

（事務管理部 柳井英美）



〈北海道〉老健はまなす  
力作ぞろいの文化祭

11月9〜14日の1週間は文化祭を開催し、通所リハビリ利用者さんの力作を施設内に展示しました。

ガチャボンのカプセルを利用して作った来年の「干支・丑」の張り子は、作者ごとに表情が異なる個性あふれる作品に。クリアファイル製のマスクケースは、両端のリボンを外せば平たく開けられるため、内側を拭いて清潔に使える便利な工夫がされています。



ちぎり絵は縦1メートル、横75センチの大作で、4人の利用者さんと職員が共同制作したものです。以前は制作に1カ月以上かかっていましたが、手慣れたこともあり、今回は1カ月足らずで仕上がりました。

ほかにも習字や絵手紙、押し絵などの素晴らしい作品が数々。担当スタッフは「今年はコロナ禍の面会制限で、せっかくの力



作を見てくれる人が少なくても残念」と述べました。

〈済生記者 坂井智美〉

Web含め参加100人超  
緩和薬物療法セミナー

〈大阪〉野江病院

医療従事者対象の「第25回大阪市東部緩和薬物療法ステップアップセミナー」を、11月12日に開催しました。

これは緩和医療の知識を深める場として、2014年度から当院薬剤科を中心に開催しているもの。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてオンラインでも参加できるハイブリ



ッド形式で開催しました。会場の当院大会議室には37人が参集。Webで北海道から鹿児島県までの病院・保険薬局などから約80人が参加しました。講師の相木佐代医師（国立病院機構大阪医療センター・緩和ケア内科）には「AYA世代の緩和ケアライフスタイルに合わせた薬剤選択」のテーマでお話いただきました。

参加者からは「このような状況下で開催してくれてありがとう」「明日から実践できる内容ばかりでわかりやすかった」などの感想をいただきました。

〈済生記者 坂本千晶〉

学会発表をオンライン配信

〈福島〉川俣病院

第3回済生会川俣地域ケアセンター学会を、当院で10月10日に開催しました。

今回は初のオンライン配信を実現。当院1階フロアのメイン会場に発表者を集め、2階食堂・養護老人ホーム川俣光風園・複合施設などしこ川俣の3カ所のサテライト会場に中継。約100人が参加しました。医療・介護・福祉の各分野か



消防自動車がやってきた!

〈栃木〉うつのみやなでしこ保育園

ら7演題の発表があり、「感染対策」「身寄りがない入所者の自立支援」「多職種との気づきの共有」など、医療・介護の連携に関する発表が目を見ましました。学会には、在宅看護学が専門の駒沢女子大学看護学部・島山とも子教授を招いて、講評をいただきました。

〈済生記者 伊藤和代〉

年に一度の消防立入検査のため、11月4日に宇都宮市消防局の署員4人が来園しました。今年も、非常時に消防自動車をどこに停めるか、どのようなルートで消火活動を実施するかを確認。その

ため署員は大きくて真っ赤な消防自動車で来園し、検査に緊張気味の私たち職員とは対照的に子どもたちは大興奮。

無事に検査を終えたところで

菅田典孝園長が「子どもたちに消防自動車を見学させてほしい」と切り出すと、「コロナ禍で普段は断っていますが、特別にお見せしますね」とうれしい返事で、急遽、消防自動車見学が実現。

子どもたちは「ピーポーピーポー」と大はしゃぎ。憧れの消防署員を前にした笑顔の園児を見て、署員たちも職員も和やかな雰囲気になりました。

多くの子どもは「はたらくくるま」が大好き。早速、園外保育の散歩コースに宇都宮病院の救急入口を加え、ドクターカーなどを見る計画を立てました。

〈保育施設事務 福田 郁〉

臨床研修評価の認定を更新

〈愛媛〉今治病院

NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価の訪問調査を9月16日に受審し、10月20日に認定されました。

当院の臨床研修センターは2016年8月に初めて受審し認定（認定期間4年）されており、今回はその更新です。臨床研修とは簡単に言うと、

医師免許取得後に、臨床の場



の調査は、その研修環境を評価するものでした。

調査員からは、「病院職員全員で良い環境作りができています。一方で、救急研修内容のさらなる充実が必要」などの評価をいただきました。指摘事項を踏まえ、創意工夫でよりよい臨床研修の実施に努めます。

〈臨床研修センター

日野志惟那〉

# topics

## 内定者60人とオンラインで オリエンテーション

吹田病院



来春入職予定の内定者オリエンテーションを11月3日にオンラインで開催し、60人が参加しました。

鳥俊英院長のあいさつに始ま

橋師長に、同会議から動画作成経緯のインタビュー依頼があり、現場の声を吸い上げたいとの意向で会議にも招聘されました。このような活動に積極的に参加すること、情報の水平展開の重要性を感じました。

(済生記者 橋本 茜)

## 〈愛媛〉西条特養

### 秋の風物詩・いもたき

デイサービスで10月21日と27日に、愛媛の郷土料理「いもた



き」を行ない、計49人の利用者さんに提供しました。いもたきは、秋の月見の際にイモを炊いて行なう宴会で、愛媛県の秋の風物詩です。本来は河川敷など主に野外で行ないますが、今回はちようちん飾りなどで雰囲気をつくり、デイサービス内で実施しました。

サトイモ・鶏肉・油揚げ・シイタケ・ニンジンなどを鶏ガラベースのしょうゆ味のだしで煮ます。するとすぐに利用者さんから「いい匂いがしてきたね」「おいしそう、食べるのが楽しみ」との声。配膳すると「熱いけどおいしいね」「やっぱり秋はいもたきやね」と喜ばれ、しめうどんを入れて食べました。今年も新型コロナウイルスの影響で、いもたきを中止にする自治体が多い中、思い切ってやって大正解。屋内ながらも秋を感じることができました。

(済生記者 村尾友和)

### 瑞宝双光章受章

令和2年秋の叙勲・褒章で、約30年にわたり当施設に務めた小山牧子元副主任介護職員(現・



り、内定者の自己紹介、各部門の若手職員による部署紹介と続きました。

内定者の自己紹介では「よく笑う」「サッカー大好き」「僕もサッカーしています」など、みんなが思い思いに自身をアピールしていました。

途中、画角がずれるというオンラインならではのハプニングが発生。とっさに鳥院長が画角調整に手を貸すと会場のスタッフに笑い声が起こりました。それは画面を通して内定者にも届き「院長と職員の距離が近い、とても温かい職場の雰囲気が伝わってきました」との感想がありました。



菌科衛生士)が、その功績を認められて瑞宝双光章を受章しました。当施設では、叙勲された職員はこれまでもいましたが、瑞宝双光章は初めてです。

11月10日にその知事伝達式が行なわれ、吉村美栄子県知事から直接賞詞を贈呈いただきました。式典終了後、小山さんはその足で当施設に立ち寄り、デイサービス利用中のご両親や職員と記念撮影。照れながらも笑顔

短い時間でしたが、画面を通して当院職員と内定者ですてきな時間を共有できました。内定者は来春に入職した後どのような成長していくのか、今からとても楽しみです。

(人事・人材開発課 横山志保)

### 〈富山〉なでしこ保育園 スカイバスに乗ったよ

富山地方鉄道の招待を受け、10月14日に年長児24人がスカイバスに乗って富山市内を周遊しました。

屋根がない2階建てのスカイバスは開放感抜群で、走行中の風切音や、隣を走る車・路面電車の音がダイレクトに伝わってきます。信号機や街路樹の葉にも手が届きそう。「うわー、おっきい!」「届かない?」と、車



で皆に報告していました。私たちも、今回の小山さんの受章を励みに、施設全体でより良い介護を提供できるように、いっそう尽力していきます。

(済生記者 三浦真澄)

## 〈大阪〉吹田病院

### 高齢者の熱中症予防会議に 高橋看護師長が出席

吹田市役所で11月5日、「高齢者の熱中症リスクに関するプラットフォーム会議」が開催され、当院の高橋安里看護師長が救急看護認定看護師が出席しました。

同会議は、一般社団法人コミュニティデザイン機構・吹田市・一般社団法人環境情報科学センターが実施者で、環境省「熱中症予防対策ガイダンス策定に係る実証事業」の一環で開催。市内から高齢者関連の多様な主体が集まり、熱中症予防の効果的な情報提示・啓発の方法などで意見を交わしました。当院では、認定看護師による一般向けの啓発動画「認定看護師かわら版」をYouTube配信しています。その中で「熱中症に気をつけて」を担当した高

内から目いっぱい手を伸ばしていました。

見慣れた風景も、いつもとは違う角度から見ることができ、目に映るものすべてに興味津々で瞳を輝かせていました。

なでしこ保育園の前を通過するときには、バスに気づいた職員や年中児が手を振ってくれ、「おーい!」とうれしそうに手を振り返し応えていました。

(済生記者 唐沢智香)



今年も2人が七五三

〈静岡〉川奈臨海学園



11月11日に七五三のお祝いをしました。今年七五三を迎えたのは、男子・女子が1人ずつ。数日前から衣装を決めたり、髪型やお祝いの食事メニューを考えたりにして、2人ともとても楽しみにしていました。

迎えた当日、着物に着替えた女の子は清楚に、羽織袴姿の男の子は凛々しい姿に変身。施設内をお披露目して回り、「かわいいね」「かわいいね」と言われるたび、照れながらもうれしそうにしました。

その後、地元・川奈の三島神社へお参りに。今日まで健康に過ごしてこられたことを感謝し、これからも健やかに過ごせますようにとお祈りしました。道中、地域の皆さんからお祝いの言葉をかけていただき、改めて多くの人々に支えられていることを感じました。

（済生記者 鈴木一大）

波の音を聞きながら  
認知症を学ぶ家族介護教室

〈愛媛〉松山病院



地域包括支援センター三津浜が10月20日に高浜公民館で開催した家族介護教室で、矢部勇人脳神経内科部長がパーキンソン病とレビー小体型認知症について講演。約50人の地域住民が参加しました。

パーキンソン病とはどのような病気か、またドーパミン細胞の減少によって起こる運動症状や、便秘・嗅覚障害・睡眠障害などの非運動症状について、分かりやすく説明しました。中でも「パーキンソン病とレビー小体型認知症はほぼ同じ病気、

静岡済生会総合病院  
障害のある先輩職員が説明  
障害者雇用で職場見学会

腸の善玉菌を増やす食生活を心がけることが認知症予防になる」という話が印象的でした。海沿いの、すぐ横を四両電車が走るのどかな会場で、波の音を聞きながら学べる心地よい講演会でした。

（済生記者 木本薫子）

静岡済生会総合病院  
障害のある先輩職員が説明  
障害者雇用で職場見学会

就職活動中の障害者の職場見学会を10月2日に開催し、就労支援機関の職員を含む14人が来院しました。コロナ禍で合同就職説明会が中止される中でハロワーク静岡が企画し、感染対策を徹底し実施しました。

当院は障害者の活躍の場を広げるため、国家資格を要さない業務や、従来は業務委託してきた分野で積極的に採用。具体的には洗濯・清掃・メッセンジャー・駐車場管理の4業務です。初めにジョブコーチが、仕事内容や勤務環境などをレクチャー。次に洗濯室に移動し、勤務7年の障害のある職員からやりがいと業務内容について説明。当事者ならではの話を聞いた参



加者は、勤務時間や雇用条件などを活発に質問していました。残念ながら今回の見学会は雇用につながりませんでした。障害者の就労支援は、医療者の負担軽減やコスト削減などの効

果を生みます。そして何よりも、彼らは一生懸命に働き、誰にも礼儀正しい姿勢で、病院を明るくしてくれれます。

（総務管理課 和田順平）

小児病棟でハロウィン

小児病棟で10月30日、ハロウ



インイベントを催しました。実習に来ている看護学生と病棟の看護スタッフが仮装をして、病室を順番に訪問。子ども

たちも仮装して輪投げなどのミニゲームと一緒に楽しみ、最後におもちゃや記念品を詰めたプレゼントを手渡しました。

看護学生と子どもたちはこの日のために、画用紙やフェルトを使ってマスクやマントを作り、病棟内にカボチャやお化けの飾り付けをするなどハロウィンの準備を一緒に進めてきました。にぎやかな訪問者に、子どもたちは「楽しかった」とニコニコの笑顔。手作りの衣装を着て喜ぶそのかわいい姿に、職員も癒やされました。

（企画広報室 杉本友幸）

9カ月ぶりの訪問相談支援

〈鹿児島〉川内病院

小児科の摺木伸隆医師が10月28日、子ども発達支援センター・つくし園に足を運び、子どもの健康や成長に関する訪問相談支援を行ない、保護者4人・施設職員3人が参加しました。

「ひらがなの書き方などを教える際に学習姿勢をどうとらせればよいのでしょうか」「アトピーについて、自宅でできる簡単なケアがあれば知りたい」。保護者や施設職員が日ごろ子



どもと接する中で抱えている悩みや質問に、摺木医師は丁寧に回答しました。

例年は年に3〜4回行なっていますが、今年は新型コロナウイルスの影響で延期が重なり、9カ月ぶりの開催です。医師に直接相談できる貴重な機会に、熱心に臨む参加者の姿が印象的で、改めて重要性を感じました。

（健康福祉課 赤崎勇一）

みんなでハロウィン

〈北海道〉小樽病院

なでしこ保育園は10月23日にハロウィンパーティーを開催



し、23人のなでしこキッズが仮装を楽しみました。先生手作りの衣装を身にまとい、子どもたちはかわいいお化けに変身。みんなで仲良く遊んだり、楽しみにしていたおやつタイムでお菓子を食べたりしてとても楽しいパーティータイムを過ごしました。

（済生記者 松尾寛志）

福井県済生会病院  
元気なお化けが集合!!



院内保育所ほかほか園の園児38人が10月30日、ミニオンや黒猫、お化けなどハロウィーンの仮装をして集まりました。昨年は仮装で病院を訪問し、職員に活力を与えましたが、コ

ロナ禍の今年は園内のみの縮小したイベントに変更。そこで秋の運動会の代わりに、お菓子食い競争などのお楽しみゲームも開催しました。

園児たちは、ひもにぶら下げたお菓子目がけて「よーいドンー」のかけ声で一斉にダッシュ。元気よく背伸びやジャンプし、上手にお菓子をキャッチするとニコニコ顔。ゲームの後は「おぼけなんてないさ」を全員で大合唱しました。

来年は平穏な日常に戻って、「トリック・オア・トリート」と笑顔いっぱい、元気な姿で病院内にいたずらしに行けることを願っています。

(済生記者 吉川千恵)

〈茨城〉常陸大宮済生会病院  
医療大使の徳田安春医師が  
教育回診で来院

医師のキャリアアップを目的とした茨城県主催の教育回診事業を11月6日に開催しました。

昨年に続き、いばらき医療大使の徳田安春医師（群星沖繩臨床研修センター長）を講師に迎え、ケースカンファレンスを実施。当院の内科・外科の医師が



実際の症例をプレゼンテーションし、活発なディスカッションを行ないました。

徳田医師からは、病歴の診察のポイントや問題リストの挙げ方、ケースサマリーの作成方法などを講義いただき、事前に承諾を得た入院患者さんのベッドサイドで診察（教育回診）も行なってもらいました。

患者さんの背景や経過、さまざまな可能性を考えて疾患を漏れなく把握するためのキーワードのレクチャーでは、参加した医師が熱心に耳を傾けメモを取っていました。

(済生記者 後藤 睦)

〈愛媛〉老健希望の園  
賞味期限切れ間近の  
非常食を地域に寄贈

当園が備蓄する賞味期限切れ間近の非常食を10月29日に、有効活用を希望する団体に寄贈しました。

例年、それらの非常食は済生会フェアなどのイベントで活用



していましたが、今年はコロナ禍で中止になりました。そこで1年以内に賞味期限が切れる、けんちゃん汁やおかゆなどの非常食を有効活用いただけませんかと地域に声かけ。すると、富田公民館と鳥生地域食堂れんこ



ん（子ども食堂）が手を挙げてくれました。

富田公民館では、感染予防に努めながら地域の餅つき大会に活用。れんこん食堂は、不登校や発達障害の子どものための勉強後の食事に、月2回出していただけのようです。

特に、れんこん食堂では「寒くなるこれからの季節に、汁物は本当に助かるんです」と喜んでいただけました。

(済生記者 伊藤君香)

地域交流事業として  
自治会のサロンに参加

〈山口〉貴船福祉ケアセンター

コロナ禍で、休止していた地  
元自治会が開催  
する「いきいき  
貴船サロン」が  
10月に再開しま  
した。

当センターは  
2018年7月  
から、地域交流  
事業の一環で参加しています。

毎月第一木曜日に開催されるサロンは、アットホームな雰囲気  
で、参加者は毎回20人ほど。  
機能訓練指導員がストレッチ  
を中心とした全身体操を行なっ  
ており、徐々に運動強度を上げ  
ています。夏場には自治会から

の依頼で、管理栄養士が水分摂取の注意点や食中毒予防、看護師が手洗い方法を中心とした感染症予防等の研修会を開いています。

その後の質問コーナーではいつも質問が多く、活発な意見交換で盛り上がりがあります。 टीमタイム中に地域の困りごとなどの相談を受けることも少なくありません。 コロナ禍であっても、これからもサロン活動の中で地域福祉の窓口としての役割も果たしていきます。

(生活相談員 池田 定)

〈埼玉〉川口総合病院  
災害対策本部立ち上げ訓練

災害対策訓練を10月16日に実施しました。

例年は全職員で災害発生時のトリアージ訓練を実施しますが、今年にはコロナ禍で参加を制限し、災害発生時の災害対策本部立ち上げ訓練を行ないました。

本部立ち上げの目的と訓練の概要を説明後、実際に佐藤雅彦院長をはじめ、名古屋恵子看護部長、中村光延事務部長代行らが参加し訓練を進行。今回は、近隣を流れる荒川の氾濫を想定



し、洪水が当院に到達するまでの間の対応を確認。どの医療機材をどこに運ぶのか、患者さんにどんなアナウンスをするのか、周辺の関連施設との連携方法など、刻々と変化する情報を基に、佐藤院長を中心にメンバーが協

力して検討しました。

振り返りでは、「あらかじめ決めておくべきことが明確になった」「訓練を定期的に行わない、準備することが大事だとわかった」など、有意義な訓練だったという感想が多くありました。

(人事・総務課 鈴木翔真)



忙し。「手を切らないようにね」との声に、「心配すんな、大丈夫だ」と笑顔を見せる人。「もうちよつと砂糖入れてもいいんねか?」「家の芋煮はゴボウが入ってたんだ」などみなさんの思い出の味も話題に。

「おいしいね」「秋だなあ」――でき上がった芋煮を囲んで普段より会話が弾むみなさんを見て、満足していただけたかなと感じました。

〈介護職員 奥山香奈〉

打ち立ての新そばで旬を味わう

〈山形〉特養愛日荘

10月25日に、入居者さんの目の前でそば打ちを披露し、立ち立てをその場で茹でて召し上がっていただきました。

例年は、おいしい秋の味覚やイベントが目白押しこの時期も、コロナ禍の今は活動に制限があり季節感が不足しています。そこで、今が旬の新そばで秋を感じてもらおうと企画しました。そば粉は地元・山形県産のオリジナル品種「出羽かおり」。久しぶりのそば打ちはやや不安でしたが、何とかうまく出来上がりました。実演中、入居者さんにそば台を囲んでもらうと、食い入るように見る人や、伸ばし作業を手伝ってくれる人もいて、楽しくつくることができました。

茹で上がったそばは「香りが強くおいしい」と大好評でした。

〈介護職員 柴田 南〉

糖尿病Webセミナー

〈福岡〉大牟田病院

糖尿病Webセミナーを10月23日に、当院3階大会議室で開催しました。地域の医療関係者と当院職員で、糖尿病の重症化予防と有効な薬剤治療に関する情報を共有し、意見交換を行うことが目的です。

ソーシャルディスタンスに配慮した会場は、コロナ禍にもかかわらず開演前にはほぼ満席となり、オンラインで参加した地域の開業医を含め60人規模になりました。

テーマは「糖尿病治療／最近の話題」。内分泌糖尿病内科・岩屋知加予医師が座長を務め、糖尿病専門医で福岡市・二田哲博クリニック院長の下野大演がありまし

特養愛日荘

夜間避難訓練で夜ならでの難しさ明確に

夜間避難訓練を10月8日に行ない、入居者さん・職員合わせて30人ほどが参加しました。

夜間帯(17時30分～6時45分)は、夜勤者5人・夜警員1人のみとなる当施設。その人員配置で、1階南側・洗濯場から出火し、初期消火に失敗して火の手が上がっていると想定し訓練しました。

19時に訓練をスタート。火元の直上階の2階南側から2階北側に避難誘導し、階段を下って1階に移動。阿部久施設長・防



火管理者・職員が駆け付け、大きな声でそれぞれの役割を確認しながら情報収集・避難指示・誘導に当たりました。また今回は初の試みで、地域に12人いる非常災害等協力員の来荘を想定した指示・誘導訓練も行ないました。

〈済生記者 高橋 睦〉

芋煮会で秋を満喫

10月21日にあじさい・りんどうユニットで、芋煮会を行いました。

山形の秋の風物詩と言えは何といっても芋煮会。この時期、週末の河原はこれに興じる人々にぎわい、山形県民の中には同日に掛け持ち参加する人もいます。

職員が見守る中、入居者さんにも調理を手伝ってもらい、ネギを切ったり味見をしたりと大



た。糖尿病と新型コロナウイルス、生活習慣、サルコペニアとの関連、有効な薬剤治療など、最新の有意義な情報が語られました。

日ごろから糖尿病治療に携わる認定看護師やPTから活発な質問が出るなど盛会でした。

〈済生記者 中村 博〉

新病院第1期完成!

〈大阪〉富田林病院

新病院の第1期工事が完成し11月4日に診療開始しました。新病院は地上6階・地下1階の免震構造で、災害時のライフライン途絶時にも72時間自立可能なバックアップシステムを完



〈新病院建設準備課 山田大貴〉

備。併せて、患者さんやご家族が利用しやすい導線やサイン、自然光豊かな明るく落ち着きのある雰囲気の内です。

病棟は、感染症対応病室の設置、個室の増床、オープンカウンターのレストラン、エレベーターなど2機、エレベーターで迅速な搬送が可能なほか、パウダールームやスタンプラウンジなど職員の働きやすい環境にも配慮しました。

第II期工事では健診センター・講堂・駐車場を整備し、来秋にグランドオープンの予定です。

本物の火で消防訓練

京都府病院



毎年恒例の消防訓練を乙訓消防組合長岡京消防署の協力の下、11月12・13日に実施し、33人の職員が参加しました。

訓練は火災をイメージしたパネルに向かって、2人一組で水消火器による消火

活動を実施。消防署員から、水をかける場所や、火元を挟んで対面に立たないなどの指導を受けました。

2日目の最終組では、実際に火を焚いて消火し、炎が上がった瞬間に緊張感が最高潮に達しました。火災の恐ろしさを再認識し、日ごろからの消防意識を高めるきっかけになりました。

万一、火災が起

つてしまった時にも職員一人ひとりも職員一人ひとりが迅速に対応できるように、これからも訓練を重ねていきます。

(済生記者 白須優也)

熊本福祉センター

勝本園長が法務大臣表彰  
人権擁護の功績認められ

児童発達支援センター・済生会なでしこ園の勝本映美園長が、10月26日に法務大臣表彰を受けました。多年にわたる人権擁護委員の功績が認められたものです。

同表彰式は例年、東京の法務省で開催されますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため熊本法務局で行なわれ、県内の3人が表彰されました。

法務大臣から祝辞が届き、多くの人権相談への対応、困難な人権侵犯事件の調査救済、創意



工夫にあふれた人権啓発活動など、人権擁護への尽力に敬意と謝意が表されました。このような名誉ある賞を、当センターの職員が受賞したこと誇りに思います。

(済生記者 熊谷 誠)

三重 明和病院

特殊詐欺の啓発活動

三重県内では9月末時点で特殊詐欺の被害額が前年度より1億5770万円も増加。生活安全協会と地域の事業所が協力し、特殊詐欺や犯罪への啓発活動をしています。

こうした中で生活安全協会から、特殊詐欺を啓発するマスク、通帳ケース・メモ帳を提供いただき、11月5日に通所リハビリテーションとデイサービスの利用者さんに配布しました。通所リハビリテーションでは、職員が特殊詐欺への注意を呼びかけながら渡しました。

当院は松阪地区生活安全協会の委託で、2017年から地域安全活動推進モデル事業を担っており、今後もこのような活動を通して特殊詐欺に対する防犯意識の普及・啓発を進めてい



迎も、すっきりと晴れやかに澄み渡りました。

「地域の役に立ちたい」と、職員の声掛けで始まった清掃活動も今年で5年目。恒例となり参加者は年々増えています。

日ごろお世話になっている地域や仲間とのつながりが実感できるこの活動を、今後も継続していきます。

(済生記者 吉川千恵)



きます。(済生記者 石田真史)

楽しいハロウィン

ハロウィンパーティーを10月30日に行ないました。好きなキャラクターや憧れの職業などのコスチュームを身にまとった園児たちは、元気に登園し特別な一日を過ごしました。

パーティーには、0〜5歳児まで全員が参加し、クイズやフアッションショーを楽しみました。フアッションショーでは、3〜5歳児の各クラスの代表が、コスチュームのポイント紹介や決めポーズでアピール。5歳児クラスの代表は、同じキャラクター



福井県済生会病院

10月24日に、病院周辺を職員たちが清掃する「済生会クリーン大作戦」を実施し、多職種の

職員とその家族も含めた約50人が参加しました。午前8時に作戦開始！参加者は、自宅から持参した軍手や鎌・火バサミを手に、病院敷地外の職員駐車場や周辺道路から用水路や側溝までを、約1時間かけて清掃しました。



最初はあいにくの小雨模様でしたが、作業を終えるころには空も心も病院周

# 載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

## X線透視診断装置(Philips Zenition 70)を使用した腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術

滋賀県病院  
宮下 心臓血管外科医長

当院の宮下史寛・心臓血管外科医長が、株式会社フリップス・ジャパンのX線透視診断装置(Philips Zenition 70) 宣伝用パンフレットに掲載されました。当該装置を使用した腹部大動脈瘤ステントグラフト



内挿術が、全国的にまだ数が少ないことから、既に活用している当院に企業側からオファーがあり、実現したものです。

宮下医長は本パンフレットで「腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術は近年では血管造影装置と手術室の機能を兼ね備えたハイブリッド手術室での治療が増えているが、費用面や設備面が厳しい場合が多々ある。そのような場合にこの Philips Zenition 70を導入することにより、通常の手術室においても問題なくステントグラフト治療が行なえるようになる」と、当該機器導入に至った経緯や症例をもとにその実用性について説明しています。

(済生記者 西澤真由美)

## 大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください

### 日本一見つけた!!

「身近に日本一はないか」と、病院周辺を散策、すると、日本一長い名称のバス停を見つけました。その名は「曲金静岡視覚特別支援

学校静岡不動産静岡南店前」。以前は「静岡盲学校前」でしたが、校名変更に合わせて、この名になったようです。漢字で22文字、ひらがなでは「まがりがねしずおか……」と43文字も!

記事には、職員は普段以上に患者や家族の話をよく聞き、不安解消に努めたこと。標準予防策を徹底したことで院内感染の拡大を防いだことなどが書かれていました。また、「よく食べよく寝る。コロナ



による制限下でも好きなことを見つけてストレスをためないようにする。明けな夜はない」と、職員のコメントも紹介されていました。未知のウイルスに最前線で立ち向かう人は、心が強い。

(本部広報室 河内淳史)

### 柿の葉すしとトビックス

済生会の皆さま、こんにちは。本誌のデザイン担当、オーヴォインタナショナルの清水です。10月号の口福にっぽんで紹介された、柿の葉すしの紅葉バージョンが



(清水美弥子)

昨日届きました。私の夫の実家は奈良県五條市であり、毎年お盆休みに墓参しています。そのお土産に必ず求めるのが、地元でも一番と評判の「たなかの柿の葉すし」。今年はコロナで帰省できなかったので、お取り寄せしてみました。初めての紅葉バージョン。お味の良さはいつも通りですが、とても美しかったです。

済生記者の皆さま、いつもお忙しいなか写真と記事をお送りいただき、本当にありがとうございます。私の担当ページはトビックスと大雑報です。「無告の窮民を救え」との明治天皇のお志を胸に日々務めておられる皆さまを少しでも応援したく、ご覧になった方が元気になっていただけるようなデザインを心掛けていきます。

これからもどうぞよろしくお願いたします。

この次のバス停が「済生会病院前」。待てよ、これを正式名称にする……漢字31文字、ひらがな59文字



(新潟病院 済生記者 渡辺佳奈子)

で軽く日本一に。「お待たせしました。次は社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会静岡済生会総合病院前です」。車内アナウンスが終わらないうちに着てしまえばいいです……。

秋も深まり、歩くにも心地よい季節となりました。皆さんも、自慢できる日本一を探してみませんか。

(静岡支部事務局 菊地 潔)

### 新潟病院に25kgの巨大カボチャ

整形外科の内山政二医師が今年もハロウィーンに合わせた、自宅で育てた巨大カボチャを当院に寄贈。10月12日に回復期リハビリ病棟のデイルームに展示しました。

内山先生は、100キロを目指してカボチャを育成、今年は最大45キロのカボチャができたそうです。病院には転がったりする危険に配慮し



(新潟病院 済生会魂)

本誌11月号に、看護職員向け賠償責任保険の広告を掲載しましたが、その保険取扱代理店・メディックプランニングオフィス社が制作協力をしている「Willnextマガジン」に、コロナの院内感染を克服したとして、「和歌山」有田病院の取り組みが掲載されていました。

## 広告索引

三井住友銀行  
——表紙見返し[表紙 2]

キリンビバレッジ(株)  
——裏表紙[表紙 4]

## 次号予告

済生 No.1099 [令和3年1月号]

済生会の不易流行論 (148) 炭谷 茂  
NEWS な済生人 炭谷 茂  
鼎談 済生会本部 鎌村誠司  
神奈川病院 須田幸隆  
NPO法人・後見つばさ 土屋太鳳

この人 土屋太鳳  
済生会交差点  
口福にっぽん (40) まゆこもり (群馬県富岡市)  
てづくりおもちゃ いまいみさ

### 実習生に大人気の名物女将

神栖市は2009年から、筑波大学医学群・医学類第5学年の4泊5日の地域医療実習を受け入れていきます。実習生は、当院や地域のクリニック・調剤薬局のほか、町の商店や農家も訪ね医療過疎の実態を学びます。

その中でも学生たちに人気なのが、宿泊先の「のぐち旅館」の名物女将・野口優子さん。明るく人柄で、不安そうな実習生に寄り添い、積極的な声かけで励ますなど面倒見の良



さがその理由です。

コロナ禍のいまは、独自のコロナ対策ノートを作成して万全の対策を講じ、「ご安全に」と記したお手製のマスクをプレゼントするおもてなし



熊本、松山から「愛」をお届けします!

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」 熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428  
松山ワークステーション「なでしこ」 愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

### 焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



済生会のトップページからアクセス!! <https://www.saisaikai.or.jp>

ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様も。ぜひご覧ください。



も。こうした気遣いからも「免疫力アップには睡眠・運動・食事と、笑うことが大事」と話す野口さんの愛情が伝わってきます。  
実習生はのぐち旅館で、野口さんからおもてなしの心を学び、さまざまな職種の一一般の宿泊者とも触れ合い、多くの経験をえています。  
私も名物女将のパワーをたっぷり浴びて、「これからも、学生の一生の思い出となる地域医療実習を行なっていくぞ」と元気になりました。  
(茨城・神栖済生会病院 済生記者 谷田 薫)



トンが答志島・佐奈の浜に漂着します。当日も海岸には大量のゴミがあり驚きました。  
特にペットボトルなどのプラスチックゴミが目立ちました。自然分解されるには400年かかるともいわれ、放置すると漁業や海洋生物への悪影響が深刻ですが、ゴミの処分には人手も時間も経費もかかりませひ、多くの方にこの問題を認識していただき、普段から「ゴミはゴミ箱へ」。当然のことですが、これが一番の解決方法だと再認識しました。今後とも地域との関わりを大切にしていきます。  
(三重・明和病院 資材整備課 山本崇人)

**済生** [令和2年12月号]  
THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saisaikai Imperial Gift Foundation, Inc.  
令和2年12月10日発行  
通巻第1098号 (第96巻第12号)  
編集兼 炭谷 茂  
発行人 社会福祉法人 済生会  
〒108-0073  
東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311 (代)  
FAX: 03-3454-5576  
印刷所 株式会社白橋  
東京都中央区八丁堀4-4-1  
© 社会福祉法人 済生会

**済生会**  
明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日 済生会を創立した。  
以来今日まで109年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。  
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 済生会となっている。  
総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
会長 有馬朗人  
理事長 炭谷 茂  
本部II東京 支部II40都道府県  
病院 82  
診療所 18  
介護医療院 1  
介護老人保健施設 29  
救護施設 1  
児童福祉施設 25  
老人福祉施設 121  
障害者福祉施設 8  
看護師養成施設 7  
訪問看護ステーション 60  
地域包括支援センター 29  
地域生活定着支援センター 5  
その他 9  
合計 395 (数字は令和元年度)  
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の62島の診療活動に携わっている。  
職員数は全国で約6万3000人。

## ゴクゴクすっきり乳酸菌

「プラズマ乳酸菌」が1,000億個配合された、  
 爽やかなレモンの果汁感と、  
 すっきりとした甘さのレモンウォーター。  
 低カロリーでゴクゴク飲めて、  
 渴いたからだにすっと浸みわたります。  
 毎日の体調管理、コツコツ続けましょう。  
 iMUSEも、きっと力になれるはず。  
 果汁1%



スポーツ中の  
水分補給と  
体調管理に



## プラズマ乳酸菌とは



キリン・小岩井乳業・協和発酵バイオが共同研究を行っている乳酸菌です。国内外の大学・研究機関の協力のもとこれまで多数の論文・学会発表を行っています。

こんな方にオススメです

- 毎日元気で過ごしたい
- 負けない自分を作りたい
- 日々の体調管理をしっかり行いたい
- 家族の大切なシーンを応援したい



キリンホールディングス株式会社  
藤原大介 博士



落 牛 THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization  
 Standard of Innovation City, Environmentally Friendly  
 第1098号  
 令和2年(2020年)12月10日発行(毎月1回・10日発行)  
 社会福祉法人 福生会